

国土開発セミナー  
Regional Development Planning (Seminar)

1. 研修期間 コード: No. A0258  
 1989年10月12日～1989年11月25日 (45日間) 設立年度: 昭和55年度

2. 定員及び割当国  
 定員: 9名  
 割当国: 12ヶ国

3. コースの目的  
 講義、討論及び見学旅行を通じ、日本の国土開発政策及び計画に関する最新の知識・技術を発展途上国からの参加者に習得させる。

4. 到達目標  
 発展途上国においては、国土開発政策及び計画に関する企画、立案及び実施の経験が少なく、そのノウハウの組織的な習得の機会が乏しいことにかんがみ、国土開発政策及び計画の企画、立案及び実施に必要な基本的知識を習得することを目標とし、あわせて、研修参加国の国土開発に資するため、我が国の国土開発政策及び計画の概要を習得させる。

5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講義	国土総合開発Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ 開発途上国における居住政策Ⅰ、Ⅱ 産業開発、農業開発計画、都市交通、防災と地域計画、住居、地域開発における公的調整過程、港湾、水資源計画等	10
実習		
研修旅行 視察	北海道	5
カントリーレポート		4
グループ研究	フリーディスカッション、スタディレポート	2.5
その他	ブリーフィング、オリエンテーション、評価会、閉講式等	23.5

## 6. 研修実施協力体制

(1) 関係省庁：国土庁

(2) 研修委託機関：(財)国土計画協会

## 7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
9	12		15	12	9	86	32

割当国及び受入人数〔( )内〕

中国 (0)、インドネシア (1)、スリランカ (1)、タイ (1)、フィジー (0)、サウジアラビア (0)、チュニジア (1)、トルコ (1)、アルゼンティン (1) ブラジル (2)、チリ (0)、ベネズエラ (1)、カンボディア (2)、ネパール (1)、パプアニューギニア (1)、ペルー (2)

## 8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

### (1) 所見

イ. プログラムはバランスがとれていた。

ロ. 研修先の対応は良かった。

ハ. 講義については、英語講義率が高く、講師は各自の資料を用意し有効に利用した。  
またスライド、OHPも良く利用された。

ニ. 国土庁で行われた国別討議はオブザーバーが多数出席し、研修員の意気が高揚した。

### (2) 問題点及び改善点

イ. ディスカッション時間をより多く取り入れたコースストラクチャを検討する。

ロ. 講義トピックと見学トピックの関連性を検討する。

ハ. 講義前にレジメを作成し、研修員に配付する。

ニ. 講義で取り上げたテーマについて見学を実施し、講義と見学に関連性を持たせる。

付表一 2 LIST OF PARTICIPANTS IN "REGIONAL DEVELOPMENT PLANNING SEMINAR, 1989"  
 (平成元年版 国土開発セミナー研修員リスト)

国際協力事業団  
 JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

AS of Oct. 4, 1989 No. 1

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Home Address
1		Argentina アルゼンチン	Mr. Daniel Alberto Rizzo	May 19, '54	Assistant Professor, Private Office of Architecture & Planning, University of Buenos Aires	Paraguay 764 18° A Buenos Aires 1057
2		Brazil ブラジル	Ms. Maria Flavia Pereira de Campos Carvalho	Apr. 8, '66	ブエノスアイレス大学 建築学部助教授 Economic Advisor Science & Technology Dept. Federal Administration Office	Rua Fernambuco, 197-3th Andar-Sdo Paulo/SP Brazil
3		Brazil ブラジル	Ms. Maria Celia Martins de Souza	Jan. 31, '57	総理所 科学技術経済部局 Institute of Agricultural Economics	Rua Bartolomeu Feio No.449 CEP 04590 Sdo Paulo - SP Brazil
4		Indonesia インドネシア	Mr. Romulus Johannes Simanjuntak	Aug. 29, '45	農業経済研究所 Chief, Sub-Division of Disaster Management Bureau of Planning Ministry of Public Works	Jl. Raya Pondok Gede No.23 Rt. 01 Rm 04 Makuraha Lobang Buaya, Jakarta, Kode Pos 13810
5		Kampuchea カンボディア	Mr. Ly Sieng Kry	Jan. 20, '62	公共事業省 企画局災害防止部長 Second Vice President Kmer Red Cross	P.O. Box 34, Surin 32000 Thailand
6		Kampuchea カンボディア	Mr. Kun Kim Teng	Feb. 19, '48	クメール赤十字 第二副所長 Deputy Administrator, Site B	P.O. Box 34, Surin 32000 Thailand
7		Nepal ネパール	Mr. Trilok Shingh Thapa	Sep. 14, '36	B地区 副行政官 Executive Director Central Panchayat Training Institute Jawalakel	Shyamkunj Mabharaj-Gurj Kathmandu, Nepal P.O. Box 3335
8		Papue New Guinea パプアニューギニア	Mr. Elias Manket Mustia	Oct. 10, '49	国土計画部 町・村計画課主任 Principal Planner, Town Planning Division Dept. of Lands & Physical Planning	P.O. Box 257 Lorengau Mamu Province, Papua New Guinea

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Home Address
9		Peru ペルー	Mr. <u>Gonzalo Bernardino Barridos Torreyon</u> バリョース	May 20, '49	Executive Director of Regional Planning National Planning Institute of Peru 国土開発局 部長	Luis Giraldo No.1215 - La Victoria, Lima 13 - Peru
10		Peru ペルー	Ms. <u>Martha Iris Vivas Davila</u> ビバース	Feb. 23, '49	Officer, Sub-director of Technical & Economic Co-operation Office - INDA Ministry of Agriculture 農業省 技術・経済協力部副部長	A. Vesalio 488 -San Borja Lima Peru
11		Sri Lanka スリ・ランカ	Mr. <u>Ariyaratne Horadugoda Gamage</u> ガマゲ	Sep. 3, '51	Assistant Government Agent Government Agent Colombo コロンボ区 副担当官	No.79 Jayasinghe Road Mambigoda, Panapitiya Sri Lanka
12		Thailand タイ	Mr. <u>Kittisak Weekun-iam</u> キタイサック	Dec. 1, '50	Environmental Officer in the Policy Planning Division Office of the National Environment Board 環境庁 政策計画部	18 Soi Salakimbuang Ekamai Rd. Prakromy, Bangkok 10110
13		Tunisia チュニジア	Mr. <u>Ghazi Ali Khadri</u> キアドリ	Mar. 16, '48	Principal Urban Planner Deputy Director National Regional Planning Ministry of Equipment and Housing 自然・国土計画部副部長・都市計画主任	26 Rue Anacole France Ben Arous 2013, Tunisia
14		Turkey トルコ	Mr. <u>Yigitguden Halli Yurdakul</u> ユルダクル	Jul. 24, '53	Group Manager State Planning Organization, Incentives Directorate 国家計画推進部 グループ長	Mesa 3, Bati Sitesi E2/4 Zeytin/Ankara
15		Venezuela ヴェネズエラ	Mr. <u>Carlos Ramon Aguilón Castillo</u> アギロン	Aug. 22, '48	Senior Planner Central Planning Agency of Venezuela 中央公画庁 主任公画室	Av. Este/3, Avilanes a Rio Res Rio Caribe Apto 93, Candelaria Caracas

国土開発セミナーコース 国別・年度別研修員受入実績表

研修回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
研修年度	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	
研修受入実績	9	9	9	9	10	10	8	11	11	14	100
バンクラデシュ				1	1						2
ミヤンマー	1								1		1
インドネシア		2	1	1			1			1	7
韓国	1						1				2
中国					1	1	1	1	1		5
マレーシア	1			1	1	1	1	1	1		6
ネパール		2	1		1	1					5
パキスタン						1					1
フィリピン			1								1
シンガポール	1										1
タイ	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	11
エジプト	1	1						2			4
モロッコ			1								1
オマーン		1									1
リベリア						1	1	1			3
タンザニア		1		1	1			1			4
シエラ・レオーネ						1					1
ザイール				1							1
ブラジル	2		1		1	1			1	1	7
コスタリカ				1							1
メキシコ	1		1	1							3
パナマ						1					1
パラグアイ		1	1	1	1						4
ヴェネズエラ					1	1			1	1	4
アルゼンティン					1				1	1	3
エチオピア							1				1
サウジアラビア							1	1	1		3
スリランカ								1	1	1	3
コロンビア								2			2
ペルー									1	2	3
チュニジア									1	1	2
トルコ									1	1	2
パプアニューギニア										1	1
その他(個別等)											
カンボジア										2	2
ネパール										1	1

省 エ ネ ル ギ ー  
Energy Conservation

1. 研修期間 コード: No. A0315  
 1989年10月16日～1989年12月6日 (52日間) 設立年度: 昭和61年度

2. 定員及び割当国  
 定員: 7名  
 割当国 10ヶ国

3. コースの目的

省エネルギーは「合理的、効率的エネルギーの使用」を推進することが基本であり、単にエネルギーの使用量を縮小するだけでなく、経済全体のエネルギー効率の向上、高効率製品の市場化の機会提供等を通して、経済の活性化に資するものである。また、省エネルギーは「純国産エネルギー」とでも言うべきもので、短期的なエネルギー需要の動向に左右されることなく、世界のエネルギー需給の安定化やエネルギー資源の枯渇防止等の中長期的観点を踏まえて実施されるものである。

本コースの目的は、我が国のエネルギー政策と現状、産業界のエネルギー管理技術、省エネルギー推進方法等に関して、講義、実習、事例視察により研修を行ない、研修員の省エネルギー推進のため管理面と技術面の水準向上を図ることにある。

4. 到達目標

研修員が帰国後に従事する業務の管理面及び技術面の向上の役立ち得る知識、技術を習得し、当該分野における指導者としての資質を高めることを目標とする。

5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講義	エネルギー政策、法律、税、運輸の省エネルギーの状況、省エネルギー技術開発の現状、新・代替エネルギー技術開発の現状、産業分野のエネルギー使用の現状、日本の産業分野の電力事情、ビルの省エネルギーの状況、エネルギー管理法、省エネルギー推進法、産業分野での燃料技術と省エネルギー、産業分野での断熱による省エネルギー技術、食品産業の省エネルギーの現状、セメント産業の省エネルギーの状況、電力機器の省エネルギー、製鉄業の省エネルギーの状況	15.5
実習	エネルギー使用量の計測・解析方法実習、ボイラーメーカー（平川鐵工所）実習	6
研修旅行視察	旭硝子、大林組、プリジストン、東京ガス、雪印乳業、TLV、関東自動車工場、日本セメント、NTT品川、平川鐵工所、川崎製鉄	7
カントリーレポート		1.5
グループ研究		
その他	ブリーフィング、オリエンテーション、評価会、閉講式等、成果発表会など	22

6. 研修実施協力体制

(1) 関係省庁：通産省

(2) 研修委託機関：(財)省エネルギーセンター

7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
7	10	14	10	9	3	20	16

割当国及び受入人数〔( )内〕

中国(0)、インド(1)、インドネシア(2)、ブラジル(1)、フィリピン(1)、タイ(1)、ジョルダン(1)、チュニジア(1)、ケニア(1)、グアテマラ(1)

8. 今年度の評価(所見、問題点及び改善点)

(1) 所見

受入先は、講師、見學員の手配、実習の機器、展示資料等万全の準備を行ったため、コース運営は大変スムーズで支障なくすすめられた。研修員も皆、積極的でクラスに活気があった。

(2) 問題点及び改善点

- イ. 成果発表会の主旨が明確ではなかったので、評価会との区別をはっきりさせるか、評価会を充実させて成果発表会を行わない等を検討する。
- ロ. 講義の中には、一方的なものもあったので質問等の時間を多くする。
- ハ. 見学先は大規模なものばかりであったので、途上国にあったより小規模な所を選定する。

LIST OF PARTICIPANTS IN "ENERGY CONSERVATION COURSE, 1989"  
(平成元年度 省エネルギー研修員リスト)

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
1		Brazil	Mr. <u>Fernando Luis</u> FERNANDES LUIS フェルナンデス・ルイス	Jun. 2, '60	Senior Engineer, Industries Program Sector, São Paulo Electric Energy Company サンパウロ電力エネルギー公社 産業技術部 工務課長	Uckensle University	Rua Paqueta Vila, Apto 112.
2		Guatemala	Mr. <u>Say Mutz</u> CERQUE ERIZQUE カルロス	Dec. 12, '56	Head Engineer, Water System National Institute of Electrification 国家電力研究所 工務課長	Completion of Mutual Diploma in Education San Carlos University	Avenida Comerio 17-48, Zona 5, Guatemala
3		India	Mr. <u>D. Madan</u> マダン	Jan. 16, '51	Deak Officer, Department of Powers, Ministry of Energy エネルギー部 電力部門副官	Law, University of Delhi	40, Cottage Declave, New Pahlia, 110063
4		Indonesia	Mr. <u>Agus Wahyudi</u> ワグス	Aug. 16, '51	Head, Section for Production of Arochese (oil Industry, Directorate for Basic Chemical Industry. 化学基礎部副官 製造部門主任	Physics Engineer Institute of Technology Surabaya	Panalong Perak Blok A-39 No.11, Ciputat, Jabara 13417
5		Indonesia	Mr. <u>Bambang</u> SUBIJONO バンバンジ	Feb. 21, '51	303/0287-1000 Department of Fuels and Energy 燃料エネルギー部 燃料エネルギー課長	Energy Management and Energy Conservation Institute of Applied Physics	21, Jalan Bulakbanyu, Kedondong, Cibinong, Cikarek (Jakarta Selatan), Indonesia
6		Jordan	Mr. <u>Suhil Kiwan</u> キワン	Apr. 14, '61	Manager, Energy and Electricity Information and Advisory Center エネルギー電力情報センター 課長	Mechanical Engineering Yarmouk University	Jrbad, P.O. Box 1463
7		Kenya	Mr. <u>Xagochi Muteno</u> ムテノ	Apr. 6, '61	Chief, Energy Conservation Section Ministry of Energy エネルギー部 省エネルギー課 化学技師	University of Nairobi	P.O. Box 48473, Nairobi
8		Philippines	Mr. <u>Raimundo B.</u> MOROLA ライモンド	Dec. 30, '54	Science Research Specialist IV, Offices of Energy Affairs 大気環境エネルギー部 化学環境専門官	Chemical Engineering University of Sto. Tomas	60 Rose Ave., Pinar Village Las Pinas, MCRO Manila
9		Thailand	Ms. <u>Soyphet Sotara</u> ソイペット	Oct. 25, '48	Director, Training Center, National Energy Administration 国家エネルギー庁 研修センター所長	King Mongkut Institute of Technology	1477 Moo 3 Chulalongkorn Rd., 25 Phetchaburi Bangkok, 10370
10		Tunisia	Mr. <u>Moakhar Bechir</u> ビシムル	Jan. 3, '53	Manager of Studies & Teacher of Thermodynamical 熱力学専攻助教及び教員	Chemical Engineering Ecole Nationale d'Ingenieur de Tunis	Cite El Menzel 601, Gabes Tunisia

省エネルギーコース 国別・年度別研修員受入実績表

国名	年度			
	1986	1987	1988	1989
中 国	1	1	1	
イ ン ド	1		1	1
インドネシア	1	1	1	2
韓 国		1		
マレーシア	1	1		
パキスタン		1		
フィリピン			1	1
スリ・ランカ	1	1		
タ イ	1	1	1	1
ジョルダン			1	1
チュニジア			1	1
ケ ニ ア	1	1	1	1
タンザニア	1	1		
アルゼンティン	2			
ブラジル		2		1
グアテマラ			1	1
計	10	11	9	10

船 員 教 育 行 政  
Administration for Seamen's Education

1. 研修機関 コード: No. A0132  
 1989年10月19日～1989年11月29日 (42日間) 設立年度: 昭和46年度
2. 定員及び割当国  
 定員: 8名  
 割当国: 11ヶ国
3. コースの目的  
 わが国の船員行政、船員教育制度に関する現状を参加各国の船員行政に携わる者に、講義、見学を通じ紹介することにより、参加各国の船員行政制度の改善と発展に寄与するとともに、参加国とわが国との友好親善を図ることを目的とする。
4. 到達目標
- (1) コース全体の到達目標  
 日本の船員行政と船員教育制度の現状について理解せしめる。
- (2) 主要研修課題の到達目標
- イ. 船員行政  
 日本の船員行政の組織並びに船員関係法規の概要を理解せしめる。
- ロ. 船員教育  
 日本の船員教育制度と各教育機関について概要を理解せしめる。
- ハ. 船員福祉  
 日本の船員福祉行政の現状について概要を理解せしめる。
- ニ. 船員の労使問題  
 日本の船員の労使問題とその対策の概要を理解せしめる。
5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講義	船員教育全般、船員法概要、船舶職員法概要、練習船実習制度、船員行政一般、国際海運の現状、船員雇用と失業対策、船員労働と組合活動、海技試験制度、船員の安全と衛生	5
実習		
研修旅 視察	船の科学館、船海訓練所練習船(横浜港)、東京商船大学、海技大学校、大島商船高等専門学校、波方海員学校、日本郵船洋光合研修センター、住友重機工業追浜造船所、船舶技術研究所	7.5
カンントリーレポート		2
グループ研究		
その他	ブリーフィング、オリエンテーション、評価会、閉講式等	27.5

## 6. 研修実施協力体制

(1) 関係省庁：運輸省

(2) 研修委託機関：(財) 海事国際協力センター

## 7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
8	11	10	8	7	18	131	23

割当国及び受入人数〔( )内〕

ミャンマー (0)、インド (0)、パキスタン (0)、フィリピン (1)、タイ (1)、アルジェリア (1)、エジプト (2)、モロッコ (0)、マラウイ (1)、タンザニア (1)、パプアニューギニア (1)

## 8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

(1) 受入先（運輸省、海事国際協力センター）の対応は大変良好であり講義サブジェクト、見学先の選択なども大変良かった。教育機関等の見学では各レベルの学校の私設、教授陣、カリキュラム等の説明を受け、講義内容の理解を補うばかりでなく、自国の教育現場、特に設備のスケール、教材、カリキュラム等、応用できるアイデアを得た。

(2) 研修プログラムは良いアレンジメントであり、特に大きな見直しは必要ないが、以下の項目については考慮する。

イ. 講義の慣れた、英語のできる講師の配置。

ロ. 視聴覚教材の使用。

ハ. ディスカッションの目的の明確化。

LIST OF PARTICIPANTS IN "ADMINISTRATION FOR SEAMEN'S EDUCATION"

(平成元年度 船員教育行政研修員リスト)

As of October 19, 1989

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
1		Algeria アルジェリア	Mr. Kerboua Ali ケルブア	Mar. 26, '53 (36)	Secretary General (Adm. & Finance) Superior Maritime Institute	Maritime Affairs Superior Maritime Institute Algiers	Institut Supérieur Maritime P.O. Box 158 Algiers
2		Egypt エジプト	Mr. Maged Mostafa Hafeen Hashed マジャド	Mar. 3, '44 (45)	Assistant Harbour Master, and Pilot Suez Canal Authority	Naval Studies Naval Academy	322 Mostafa Kamel St. Port Said Egypt
3		Egypt エジプト	Mr. Magdy Moustafa Mohamed マクダ	Feb. 27, '48 (41)	Director of Seaman Section Ports and Lighthouse Administration	Operation Research Arab Maritime Transport Academy	26 Eltwifi Street Raghib Basha Alexandria Egypt
4		Malawi マラウイ	Mr. Laston George Williams Makuzula マクズラ	Aug. 25, '58 (32)	Principal Administration of Marine Training College (Trainee)	Tech. Education Malawi Polytechnic	Misonali Village P/A Chimwa P.O. Lutchenza Malawi
5		PNG パプアニューギニア	Mr. Albert Braki ブラキ	Oct. 11, '52 (36)	Executive Officer Shipping Administration Department of Transport	Public Service Higher Certificate Administration College	Department of Transport P.O. Box 457 Konedobu, P.N.G
6		Philippines フィリピン	Ms. Alejandra M. Bondoc ボンドック	May 13, '47 (42)	Maritime Manpower Specialist Maritime Industry Authority	Public Administration Polytechnic University of Philippines	442, Tejeros Garden Bliss. H. Santos St. Makati, U.M. Philippines
7		Tanzania タンザニア	Mr. Othman Ali Othman オスマン	Jul. 7, '49 (40)	Assistant Branch Manager Shipping Corporation of Zanzibar	Ben-Bella Secondary School	Shipping Corporation of Zanzibar P.O. Box 1395 DSK Zanzibar
8		Thailand タイ	Mr. Kussapa Prasertwit カサバ	Mar. 4, '51 (38)	Head of Engineering Section Harbour Dept. Ministry of Transport and Communication	Engineering Naval Academy	79/11 Soi Sakai Rajadamern Av. Bangkok 10200 Thailand

船員教育行政コース 国別・年度別研修員受入実績表

地域別	年度 国名	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H.1	計
		ア	韓 国	1		1				1							1				
	ミヤンマー																	1			1
	フィリピン	2		1			1	1			1	1		1	1	1	1		1	1	13
	タイ			1							1	1		1			1			1	6
	ヴィエトナム		1																		1
ジ	マレーシア	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1		1	1					13
	シンガポール		1			1	1	1	1	1	1	1	1		1	1					11
ア	インドネシア	1			1	1	2	1	1		1	1	1	1		1					12
	バングラデシュ							1	1						1						3
(13)	イ ン ド			1															1		2
	スリランカ				1										1						2
	パキスタン																	1	1		2
	モルディブ																1				1
中近東 (2)	イ ラ ン				1	1	1	2	1		1	1									8
	イ ラ ク				1																1
ア フ リ カ (7)	タンザニア				1	1			1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	12
	アルジェリア																		1	1	2
	モ ロ ッ コ																		1		1
	マ ラ ウ イ															1	1	1	1	1	4
	エ ジ プ ト				2	1	2	2	2	1	1	1		1	1	1	1	1	1	2	19
	チュニジア							1													1
	象 牙 海 岸									1	1	1	1	1	1		1	1	1		8
中南米 (3)	コロンビア								1												1
	ホンデュラス															1					1
	ブラジル										1		1								2
太平洋 (3)	パプア・ニューギニア													1					1	1	3
	ソ ロ モ ン													1							1
	フ ィ ジ ー								1	1	1	1	1								5
	計 (23ヶ国)	4	4	5	3	8	8	10	8	8	9	10	8	8	7	7	8	7	10	8	140

## 住 宅 建 設 Housing

1. 研修期間 コード: No. A0230  
 1989年10月19日～1989年12月11日 (54日間) 設立年度: 昭和53年度

2. 定員及び割当国  
 定員: 11名  
 割当国: 13ヶ国

3. コースの目的

本コースは、我が国技術協力計画の一環として日本政府により設けられたもので、開発途上国において住宅政策にたずさわる中堅行政官を対象として、日本の住宅事情、及び住宅供給に関する政策、行政機構等を紹介し、自国の住宅事情を改善するための政策を展開するに必要な知識を習得させることを目的とする。同時に研修員・講師・日本の行政官の間に意見交換の場を設定し、相互の理解を深めることにより、参加国と日本の友好関係を高めることを目的とする。

4. 到達目標

研修員が、本研修コースを通じ帰国後自国で有効な住宅政策を推進できるよう、有用な情報を獲得させるべく配慮する。即ち、研修員が日本の住宅政策及び様々な施策につき、その導入の背景・目的・運営の実態、問題点等を総合的に理解することと、またこれまでの住宅政策の発展過程について理解することを到達目標とする。

5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講 義	日本の国土・地域開発と都市問題、農村の生活と住宅問題、日本の住宅事情と住宅政策、人口と都市問題、都市計画、建築基準、公営住宅、住宅・都市整備公団、宅地供給、住宅生産の近代化、住宅金融、区画整理、住宅地区改良事業、土地区画整理事業、市街地再開発事業、日本と第3世界諸国の住宅問題比較、住宅建築技術と材料、第3世界諸国の都市開発と今後の展望、アセアン諸国の住宅政策、住宅に関する海外協力活動、日本の住宅事情と住宅政策、ローコストハウジング	9.5
実 習	日本の住宅-東京都内・近郊見学、日本のニュータウン・多摩N.T.見学、市街地再開発事業とその見学、土地区画整理事業とその見学、住宅地区改良事業とその見学(広島市)日本の民間住宅建設-高層住宅見学、日本の住宅産業-プレハブ工場見学、日本建築センター晴海展示場見学	3.0
研 修 旅 行 視 察	つくば研修旅行、ホームステイ、関西研修旅行	11.0
カントリーレポート	研修員各自による自国の住宅事情・住宅政策の説明	4.5
グループ研究	・公団の事業 ・民間建築設計事務所の活動 ・地方公共団体の住宅政策	3.5
そ の 他	建設省表敬(含オリエンテーション)、エバリュエーション、閉講式他	22.5

## 6. 研修実施協力体制

(1) 関係省庁：建設省

(2) 研修委託機関：(財)日本建築センター

## 7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
11	13	25	14	13	11	172	42

割当国及び受入人数〔( )内〕

Bangladesh (1)、インドネシア (1)、マレーシア (1)、タイ (1)、ネパール (1)、フィリピン (1)、エジプト (1)、イラク (1)、バハレーン (1)、イエメン (1)、ガーナ (1)、ナイジェリア (1)、ウガンダ (1)

## 8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

### (1) 所見

建設省住宅局住宅政策課が研修計画を立て、その細部の実行に当たったのが日本建築センターであった。この連携が緊密で実にスムーズな協力関係にあったため、研修も非常にスムーズかつ、効果的に行われた。

### (2) 問題点及び改善点

下記の点が研修参加者から指摘された。

(イ) 農村の住宅問題を講義に加える。

(ロ) 建築中の現場の視察を行なう。

(ハ) 旅行日程をもっとゆったりさせる。

(ニ) 英語力のある講師を配置する。

以上のうち、(イ) (ロ) (ハ) については、改善することとし、(ニ) は即座の解決は困難だが、講師には講義の「心構え」の様なものを事前配布し、改善を図るものとする。

LIST OF PARTICIPANTS IN "GROUP TRAINING COURSE IN HOUSING, 1989"

(平成元年度 住宅建設コース研修員リスト)

As of October 19, 1989 No. 1

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
1		Bahrain バハレーン	Mr. Ali Ahmed Jassim ジャースィム	1955 (34)	Senior Site Engineer, Technical Affairs Directorate, Ministry of Housing	College of Engineering Riyadh University ('71-'77, Civil Engineering)	P.O. Box 20207 28088, Bahrain
2		Bangladesh バングラデシュ	Mr. Md. Azizul Islam イスマム	Dec. 31, '49 (40)	Executive Engineer, Public Works Division Narsingdi.	Bangladesh University of Engineering & Technology ('66-'70, Civil Engineering)	4/B, Jigotola Dhaka-1209, Bangladesh
3		Egypt エジプト	Mr. Hisham Abousarada ヒシャム	Jan. 23, '56 (33)	Assistant Lecturer, General Organization for Housing Building & Planning Research	Cairo University ('82-'87, Architecture)	14 Zohby Street, El Dabaz, Apt. 38, Cairo, Egypt
4		Ghana ガーナ	Ms. Yea Ossi-Brimpeng ヤ ヲ	Aug. 2, '53 (36)	Deputy Director, Ministry of Works and Housing	University of Ghana Institute of Social Studies, The Hague, Netherlands	P.O. Box 9672 Kocok Airport, Accra, Ghana
5		Indonesia (個別研修員) インドネシア	Mr. Seleh サレ	Nov. 25, '38 (50)	Chief, Housing Environment and Sanitary Engineering Division, Institute of Human Settlement	Academy of Public Works and Sanitary Engineering ('61-'64, Municipal Engineering)	Jalan R.A.A. Mardasara 88 Bandung, Indonesia
6		Indonesia インドネシア	Mr. Gultom Ondihon Paruhuman グルトム	Jan. 31, '44 (45)	Head of Construction Division, National Urban Development Corporation	Bandung Institute of Technology ('62-'74)	Jati Raya St., Semarang, Indonesia
7		Iraq イラク	Mr. Fateh Kaddem Al-Abed フテレ	May 13, '51 (38)	Planning and Studies Division, Ministry of Housing and Construction	University of Baghdad ('69-'73, Civil Engineering)	Bayhad - Sadeas District, Iraq
8		Malaysia マレーシア	Ms. Badariah Adnan バダリヤ	Aug. 13, '57 (32)	Executive Architect, The City Hall of Kuala Lumpur, Prime Minister Department	University of Technology ('75-'81, Architecture) Post-Graduate Diploma (Housing) A.S., London	22, Jln. Pinnang Kuala Lumpur 50450, Malaysia

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
9		Nepal ネパール	Mr. Amrit Man Shresthacharya アムリット	Dec. 10, '47 (41)	Programme Chief, Department of Housing and Urban Development	Regional Engineering College, Kourkela ( '67-'72, Civil Engineering)	8/506, Motu Tole Kathmandu, Nepal
10		Nigeria ナイジェリア	Mr. Yakub Abiodun Bakogun バコグン	May 4, '51 (38)	Chief Planning Officer, in charge of Regional Development	University of Ibadan ( '73-'76, '82-'83, Economics)	15, Konde Lane Via Ekoke Street, Lagos, Nigeria
11		Philippines フィリピン	Mr. Roberto C. Valladores ロベルト	Oct. 10, '52 (37)	Project Officer, Housing and Land Use Regulatory Board	Polytechnic University of the Philippines ( '70-'79, Marketing and Management)	No. 53 Mercury Road, Pinar Villa, Las Pinas, Metro, Manila, Philippines
12		Thailand タイ	Mr. Smanphon Romyanond スマンポン	Apr. 28, '50 (35)	Chief of Project Co-operation Section, Community Development Department National Housing Authority	Chulalongkorn University ( '72-'74, Mathematics and Science)	2/180 Soi 22 Sukkeo Village Rambhambang Rd., Minburi, Bangkok, Thailand
13		Uganda ウガンダ	Mr. Godfrey Lubowa ルボワ	Jan. 23, '63 (26)	Housing Officer, Ministry of Housing and Urban Development	Makerere University ( '83-'86, Economics and Sociology)	P.O. Box 7122 Kampala, Uganda
14		Yemen Arab Republic イエメン	Mr. Saeed Abdo Ahmed Obad サイード	1956 (33)	Head of Urban Development Department Ministry of Municipalities and Housing	University of Basrah ( '74-'79, Civil Engineering)	P.O. Box 2945 Sana'a, Yemen Arab Republic

住宅建設コース 国別・年度別研修員受入実績表

研修回数 実施年数	特設	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
		(8)	(10)	(11)	(10)	(9)	(7)	(8)	(7)	(9)	(6)	(6)	(6)	
(アジア地域)	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	元
パングラデシュ	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	12
ブータン										1				1
ミャンマー	1	1	1	1	1	1	1		1					8
中華人民共和国				1	1	1	1	1	1	1				4
インドネシア										1				1
大韓民国	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	15
マレーシア	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	6
ネパール	1	1	1	1	1	1	1		1				1	10
パキスタン									1					5
フィリピン	1	1	2	1	1	1	1	1				1	1	3
シンガポール								1	1					10
スリランカ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			5
タイ	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	14
(中近東地域)	(1)	(4)	(5)	(3)	(3)	(3)	(3)	(1)		(2)	(3)	(3)	(4)	(35)
アフガニスタン	1	1	1											2
アルジェリア				1										1
エジプト			1	1							1	1	1	5
イラン	1	1	1											3
イラク	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	12
ジョルダン							1				1			2
サウジアラビア					1	1								2
シリア			1		1	1								3
トルコ	1									1				2

研修回数 実施年度	特設	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
		53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	
バハレ												1	1	2
イエメ													1	1
(アフリカ地域)				(2)	(2)			(2)	(3)	(3)	(3)	(2)	(3)	(20)
ガニ				1	1	1			1	1		1	1	5
ケベリ				1	1			1	1	1				5
ナイジェリア								1	1		1	1	1	5
シエラレオネ										1				1
タンザニア									1					1
ウガンダ											1		1	2
(中南米地域)			(1)	(2)	(2)	(3)	(6)	(3)	(2)	(1)	(1)			(24)
ブラジル			1	2	1	1	2	1	1	1				9
コロンビア							1	1	1	1				4
エルサルバドル					1									1
グatemala											1			1
グatemala							1							1
パラグアイ						1	1	1						3
ペルー							1	1						2
ヴェネズエラ						1								1
チリ												2		2
(その他)										(2)				(2)
ユゴスラヴィア										1				1
フィジー										1				1
研修員受入実績	8	12	16	17	17	17	16	14	12	17	13	14	13	185

通 信 網 計 画 設 計  
Telecommunication Network Planning and Designing

1. 研修期間 コード : No. A0173  
 1989年10月19日～1989年12月21日 (64日間) 設立年度 : 昭和48年度

2. 定員及び割当国

定 員 : 15名

割当国 : 17ヶ国

3. コースの目的

開発途上国で電気通信事業に従事する技術者に対し、通信網の計画及び設計に関する知識ならびに技術を紹介する。

内容として、通信網基本計画・電気通信設備概要・通信網設備計画をとりあげて研修を実施し、もって開発途上国における電気通信事業の人材養成に寄与することを目的とする。

4. 到達目標

通信網に関し、新設・拡張計画を立案しさらにその設計を行い得る能力を与える。

5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研 修 科 目 ・ 研 修 場 所 等	日数
講 義	①電気通信網設備概要 ②通信網基本計画 ③通信網設備計画	24
実 習		
研 修 旅 行 視 察	NTT中国支社、広島ネットワークセンター、関西支社、松下電器、京都支社等	9.5
カントリーレポート		1
グループ研究		
そ の 他	ブリーフィング、オリエンテーション、評価会、閉講式等	29.5

6. 研修実施協力体制

(1) 関係省庁：郵政省

(2) 研修委託機関：日本電信電話株式会社

7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
15	17	15	15	13	16	251	40

割当国及び受入人数〔( )内〕

ミャンマー (0)、インド (1)、大韓民国 (0)、フィリピン (1)、スリ・ランカ (0)、マレーシア (1)、ペルー (3)、ヴェネズエラ (1)、メキシコ (0)、チリ (1)、サウディ・アラビア (1)、トルコ (0)、クウェイト (1)、イエメン (0)、エチオピア (1)、マラウイ (1)、ジンバブエ (1)

割当国外受入人数〔( )内〕

ガーナ (1)、PNG (1)

8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

(1) 所見

マレーシアの研修員が腹痛（おそらく大腸炎）で入院するという出来ごとがあったが、その他は事故もなく、研修員数が18名と多かったわりにはまとまりも良く、研修員の質も良かった。受入先の対応も手慣れたもので特に問題はなかった。研修面でも、生活面でも、大きな問題は特になく、コースは成功裡に実施された。

(2) 問題点及び改善点

演習の時間を増やす方向で検討する。

LIST OF PARTICIPANTS IN "TELECOMMUNICATION NETWORK PLANNING AND DESIGNING. 1989"  
(平成元年度 通信網計画設計コース研修員リスト)

As of October 23, 1989 No. 1

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
1		Chile チリ	Mr. Hector Manuel Soto Miranda	Nov. 14, '53 (35)	Chief of Concession Department, Subsecretaria de Telecomunicaciones	Universidad Tecnica Federico Santa Maria (Electronic Engineer)	La Canada 7300 DPTO. 107, La Reina CHILE
2		Ethiopia エチオピア	Mr. Asvat Demessie	Oct. 23, '48 (41)	特務部長 電気通信総局 Technical Section Chief Ethiopian Telecommunication Authority (ETA)	Telecommunication Institute (Switching)	Dessale, BRITOP2, Hager 2, Hesel Oa, House No.
3		Ghana ガーナ	Mr. Maxwell Owusu-Banson	Jun. 9, '49 (40)	技術主任 エキスピア電気通信局 Telecommunications Super-Intendant, Supervising Officer-in-charge, P & T Corporation Outside Plant	Telecommunications Engineering School (Technical Officer's Cert. Outside Plant)	P & T Engineering, Takoradi, GHANA
4		Honduras ホンデュラス	Mr. Jose Raul Cruz Murcia	Dec. 12, '58 (30)	通信網計画部 郵電公社 Network Planning and Designing Engineer, HONDURTEL	University (Participaba) Honduran Engineer (Communication)	Col. Miraflores, B-79, Tegucigalpa, HONDURAS
5		India インド	Mr. Roop Krishan Pandit	Aug. 10, '51 (38)	通信網計画設計技師 郵電公社 Assistant General Manager, Department of Telecommunications	Indian Institute of Technology (M. Tech. Communication Systems Engineering)	70-A Indiranagar Srinagar, JAK Pin: 190001, INDIA
6		Indonesia インドネシア	Mr. Tony Wardani	Jun. 7, '58 (31)	部長補佐 通信局 Operational Division of Telephone Networking, PERUMTEL	University ITB (Certificates, Electronics)	11. Sumbang M. S. Sumbang, INDONESIA
7		Kuwait クウェイト	Mr. Abdul Aziz Y.S. Al-Fahed	Jun. 25, '50 (39)	電話通信課長 郵電公社 Head of Maintenance Section, Ministry of Communications	Technical Training Institute (Communication System)	P.O. Box 17493, Khalidya 72455, KUWAIT
8		Malawi マラウイ	Mr. Rocwell Ben Kecheche	May 3, '48 (41)	管理課長 通信局 Senior Engineer, Maintenance, Malawi Post Office	Malawi Polytechnic (Telecommunication)	Kapichimila Village, T.A. Nkwalo, Mazuba MALAWI
9		Malaysia マレーシア	Ms. Halimah Bte A. Halim	Nov. 13, '58 (30)	操作・管理主任 郵電局 Assistant Manager, Specialist Telecom Malaysia	University of Manchester, Institute of Science & Technology (Electrical & Electronics Engineering)	46 Jalan Indah 12 Taman Charas Indah, 50100 Kuala Lumpur, MALAYSIA

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
10		Papua New Guinea パプアニューギニア	Mr. Tony Alam アイアム	Jul. 22, '60 (29)	Project Engineer, Data Switching, P.T.T. プロジェクト技術 郵電公社	Papua New Guinea University of Technology B.S. of Engineering in Electrical Engineering)	P.O. Box 2195 Boroko, PAPUA NEW GUINEA
11		Peru ペルー	Mr. Oscar Ernesto Salsverry Cardo オスカ	Dec. 21, '56 (32)	Engineer II Instituto Nacional de Investigacion y Capacitacion de Telecomunicaciones 技術員 電気通信研究機関	Universidad Nacional de Ingenieria (Electronic Engineer)	Pta. Moreque C-503 C.H. Julio C. Tello, Boligrazi 3/8 San Miguel, PERU
12		Peru ペルー	Mr. Santiago Jose Duarte Carbaljal トサルチ	Nov. 6, '56 (32)	Specialist in Planning Engineer, Planning Network Dept., Peruvian Telephone Company 計画エンジニア専門家 郵電公社	National Engineering University (B. Electronic Engineering)	Casa Saneada 267 Urbanizacion, Miraflores San Miguel, Lima PERU
13		Peru ペルー	Mr. Ruben Dario Toranzo Silva トランソ	Oct. 5, '53 (35)	Chief of Outside Plant Design Project Empresa Nacional de Telecomunicaciones del Peru 建設設計プロジェクトリーダー 電気通信公社	Universidad Nacional de Ingenieria (B. Electrical Engineer)	Urbanizacion Fundo IV Zepa, Residencial, Sanatorio Pantano El-5, Pasaje 4, Fase 2, Lima 7, PERU
14		Philippines フィリピン	Mr. Jaime Z. Malay Jimmy ジミー	Jan. 5, '59 (30)	Unit Supervisor The Philippine Long Distance Telephone Company 係長 長距離電話公社	University of Santo Tomas (B.S.E.C.E.)	21 Rd. 13 PAG-ASA, Quezon City, PHILIPPINES
15		Saudi Arabia サウジアラビア	Mr. Alsofayan Abdullatif アブドラタイフ	Dec. 4, '57 (32)	Department of Telecommunication Ministry of Interior 内務省 通信部	South Dakota Sta Univ. (Electrical Engineering)	P.O. Box 1235 Riyadh, 11441 SAUDI ARABIA
16		Thailand タイ	Mr. Kajornsak Attasampan カジョルサク	Jul. 29, '48 (41)	Engineer Grade 3 Telephone Organisation of Thailand 技術(第3) 郵電公社	King Mongkut's Institute of Technology (B. Electric Industrial)	1/9 M. 22, Poonasamngprai Rd. Bangkok, Thailand, SAMUTPRAKARN, THAILAND
17		Venezuela ヴェネズエラ	Mr. Lino Olexis Caceres Hernandez リノ	Sep. 23, '61 (28)	Project Engineer (Electrical Engineer II Compañia Venezolana Nacional Telefonos de Venezuela CANTV プロジェクト、電気技術 郵電公社	Ward University (Electrical Engineer)	N. El Paseo, Cta Florimar, Los Rosales Caracas 1040 VENEZUELA
18		Zimbabwe ジンバブエ	Mr. Sizoo Darlington Mhalanga シゾ	Sep. 11, '57 (32)	Manager Local Switching, Post and Telecommunications Corp. of Zimbabwe 地方交換部長 郵電公社	Chelsea College, University of London (B. Sc./Honours Electronic Engineering)	24 Kipling Road Greendale North, Harare, ZIMBABWE

通信網計画設計コース 個別・年度別研修員受入実績表

備考：市外網計画設計 → 電話網計画設計 → 通信網計画設計 (単位：人)

国名	平成元年度までの累計	実施回数(上段)及び年度(下段)																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
(全地域)	264	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元
(アジア地域)	91	15	14	12	15	18	14	18	18	14	16	18	16	14	17	15	15	15
バングラデシュ	1	3	5	5	3	5	7	4	9	5	5	6	8	3	7	7	6	3
ミヤンマー	2														1			
中国	2										1							
インドネシア	7						1	1				1	1			1	1	1
大韓民国	3	1	1	1	1	1	2		2	1	1	1	1					
マレーシア	6										1	1	1	1			1	1
ネパール	3																	
パキスタン	4																	
フィリピン	16		2	1	1	2	1	1	2		1	1				1	2	1
シンガポール	4						1	1	1	1								
スリランカ	11	1	1	1					2	1		1	1		1	1	1	1
タイ	17	1	1	2		1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	1	1	1
ブルネイ	1													1				
(中近東地域)	39	2	2	1	3	3	3	3	2	1	1	3	2	3	2	3	3	2
アフガニスタン	1						1											
アルジェリア	2					1		1										
エジプト	10					1	2	1	2		1	1					1	1
イラン	5	1	1		1	1						1						



(単位:人)

国名	平成元年 度までの 累計	実施回数(上段)及び年度(下段)																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
(中南米地域)	92	48	49	44	47	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
アルゼンチン	2										1				1			
ボリビア	9	1				1		1		1	2	1		1				
ブラジル	9	4	1						2		1		1					
チリ	4								1				1	1				1
コロンビア	8	2	1		3					1				1				
コスタリカ	1								1									
ドミニカ共和国	1									1								
エクアドル	5								1	2		1	1					
グアテマラ	8			1	1	1	1	1	1		1	1			1			
ホンジュラス	7	1		1		1						1	1		1	1		
メキシコ	9			1	1	2				1	1	2						1
ニカラガ	1				1													
パラブアイ	8	1								2	1	1	1	1				
ペルー	15	1	1	1	1	2	1	1	1				1	1	1	1	1	3
ベネズエラ	5														1	1	2	1
(オセアニア地域)	2																	
パプアニューギニア	1														1			1
ソロモン諸島	1															1		
(ヨーロッパ地域)	1																1	
ユーゴスラビア	1																1	

原子力安全規制行政セミナー  
Seminar on Nuclear Safety and Regulation

1. 研修期間 コード：No. A0354  
 1989年10月23日～1989年11月19日（28日間） 設立年度：昭和62年度

2. 定員及び割当国  
 定員：5名  
 割当国：7ヶ国

3. コースの目的  
 開発途上国の原子力の安全・規制に携わる行政官を対象に、わが国の原子力行政と安全規制のしくみや、現場での放射線管理システムを理解させるとともに、参加各国の原子力安全・規制の現状および諸課題について意見・情報の交換を行うことにより、各国の原子力安全規制行政の一層の充実に寄与することを目的とする。

4. 到達目標  
 わが国の原子力安全・規制行政を理解することにより、原子力安全確保の重要性を大前提に各国が独自の原子力平和利用開発政策を充実していく上で必要な基礎知識を習得せしめる。

5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講義	原子力安全規制の法体系と行政組織、アイソトープ・放射線利用の安全規制、原子炉等規制法概要と試験・研究炉の安全規制、放射性廃棄物の処理・処分に関する安全規制、原子炉施設周辺の防災対策、商業用原子力発電炉の現状、地方自治体における原子力行政、アイソトープ取り扱い施設の許認可手続きについて	11
実習		0
研修旅行視察	日本原子力発電敦賀発電所、広島大学原爆放射線医学研究所、日本原子力研究所東海研究所	6
カントリーレポート		0.5
グループ研究		0
その他	ブリーフィング、オリエンテーション、評価会、閉講式等	10.5

## 6. 研修実施協力体制

- (1) 関係省庁：科学技術庁
- (2) 研修委託機関：(社)日本原子力産業会議

## 7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
5	7	8	6	6	2	6	6

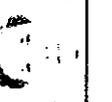
割当国及び受入人数〔( )内〕

中国 (0)、インドネシア (2)、大韓民国 (1)、マレーシア (0)、フィリピン (1)、タイ (1)、  
 Bangladesh (1)

## 8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

- (1) 研修期間が3週間と短い、講義（9項目）、見学、研修旅行と密度の高い充実したプログラム内容となった。しかし、全体の日程が、年齢の高い研修員には厳しいものであったので、もう少し時間的余裕のあるプログラムとするために数日間の研修期間延長を検討する。
- (2) 質疑応答、討論時間を十分取るようにする。
- (3) カントリーレポートの発表時間（現行5時間）の拡充を図る。
- (4) 配布資料、教材等は、内容も新しく有益性に富むものであった。

LIST OF PARTICIPANTS FOR 3RD SEMINAR ON NUCLEAR SAFETY ADMINISTRATION  
(平成元年度 第3回原子力安全規制行政セミナー参加者名簿)

No.	Photo	Country	Name	Age	Present Post	Final Education	Home Address
1		Bangladesh バングラデシュ	Dr. M. A. Rab Molla ラブ・モラ	53	Director, Nuclear Safety and Radiation Protection Division, and Chief Scientific Officer, Bangladesh Atomic Energy Commission 原子力安全・放射線防護課長 兼 主任科学官	University of Toronto, Canada (Ph.D. in Radiation Biophysics)	Flat-C-20 BAC Housing Colony Aurang, Mombasa, P. O. Gushan, Dhaka-12 Bangladesh
2		Indonesia インドネシア	Dr. R. P. H. Ismuntoyo イスマントヨ	46	Director, Reactor Safety Technology Research Center, National Atomic Energy Agency 原子力庁 原子炉安全技術研究センター長	Kansas State University (Ph.D. in Nuclear Engineering)	Geger Kalong Hill 69, Bandung 40153 Indonesia
3		Indonesia インドネシア	Mr. Heryudo Kusumo ヘルユド クスモ	40	Division Head, Atomic Energy Control Bureau National Atomic Energy Agency 原子力庁 原子力規制局課長	Bandung Institute of Technology (Ph.Sc. in Nuclear Engineering)	Kamp. Beton No.6.10 Ranababu, Ps. Hloppi Jawara 11520, Indonesia
4		Korea 韓 国	Mr. Lee, Soon-Chul リー (李純臣)	42	Senior Inspector Ujin Nuclear Power Plant Ministry of Science and Technology (MOST) 科学技術院ウルジン発電所 主任検査官	Pennsylvania State University (Radio-Chemistry)	Joopong Apt. 121-009 405-Ho, Bilsong-dong, Daewong-city, Kyungsi-do, Korea
5		Thailand タ イ	Mr. Pongsuk Pongopat ポングパット	41	Senior Health Physicist Health Physics Division Office of Atomic Energy for Peace Ministry of Science, Technology and Energy 科学技術エネルギー省 原子力庁保健物理師主任	Chulalongkorn University (M. Eng. in Nuclear Technology)	5/1749 Sam Fretachuen Sai 14 Samukki Rd., Bang Talard, Bangred, Nonthaburi, 11120 Thailand
6		Philippine フィリピン	Mr. Domingo Domondon ドミンゴ ドモンドン	53	Supervising Science Research Specialist Head, Standards Development Section Philippine Nuclear Research Institute フィリピン原子力研究所 玉座研究室長 標準開発課長	University of Michigan (M.Sc. in Nuclear Engineering)	Congress Village, Novaliches, Caldochan City Philippines

原子力安全規制行政セミナーコース 国別・年度別研修員受入実績表

年度 国名	S.62	S.63	H.1	合計
【 ア ジ ア 】				
バングラデシュ		1	1	2
中 国	1		0	1
インドネシア	1	1	2	4
韓 国	1	1	1	3
マレーシア	1	1	0	2
パキスタン				
フィリピン	1	1	1	3
スリランカ				
タ イ	1	1	1	3
合 計	6	6	6	18

## 認 証 検 査 制 度 Certification Systems

1. 研修期間 コード：No. A0235  
 1990年1月8日～1990年3月8日（60日間） 設立年度：昭和54年度

2. 定員及び割当国  
 定員：10名  
 割当国：13ヶ国

3. コースの目的

本コースは発展途上国における認証検査機関等の研修員に対し、我が国の工業製品の品質保証の礎となる認証制度・検査制度の考え方・体系を講義及び工場、検査所での実地見学等を通して認識させ、品質意識の向上をはかることを目的とする。研修員が帰国後、この分野の指導者として活躍することによって、開発途上国の製品品質の向上と、それによる消費者保護さらには、国際貿易が円滑に促進されることを期待するものである。

4. 到達目標

上記コースの目的に沿い、研修員に対して、我が国の現状の紹介を通じ、認証検査制度の目的、意義、歴史及び法体系を理解させ、これら研修員が帰国後、自国で認証制度・検査制度を導入・推進する上で役立つ知識を取得させ、当該分野における指導者に養成することを目標とする。

5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研 修 科 目 ・ 研 修 場 所 等	日数
講 義	認証概論、計量法に基づく計量管理制度、日本の認証制度、JISとJISマーク表示制度、認証と検査、トレーサビリティとキャリブレーション輸出検査法、JIS工場になるための工場側の対処ガットスタンダードコードと国際標準化、IEC電子部品品質認証制度、JIS個別審査事項、わが国の工業標準化政策、IEDEE、JAS制度について、抜取検査消費生活用製品安全法に基づく認証、電器用品取締法に基づく認証、認証と試験所の役割、これからの標準化	12.5
実 習	工場実習（ミットヨ計測学院）	2
研 修 旅 行 視 察	(株)日立製作所多賀工場、古河電工(株)平塚事業所、TDK(株)千山川工場、松下電器産業(株)、通商産業検査所、日本電気用品試験所、計量研究所、日本電気計器検定所、機械電子検査検定協会、電子技術総合研究所、東京農林規格検査所、JAS工場	14.5
カントリーレポート		2
グループ研究		
そ の 他	ブリーフィング、オリエンテーション、評価会、閉講式等	29

## 6. 研修実施協力体制

(1) 関係省庁：通産省

(2) 研修委託機関：(財)日本規格協会

## 7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
10	13	20	13	12	10	108	24

割当国及び受入人数〔( )内〕

中国 (1)、インドネシア (1)、大韓民国 (1)、タイ (1)、シンガポール (1)、香港 (0)、マレーシア (2)  
サウディ・アラビア (1)、イラク (1)、シリア (0)、チュニジア (1)、チリ (0)、パプアニューギニア (1)、  
アルゼンチン (1)、マダガスカル (1)

## 8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

### (1) 研修日程

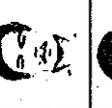
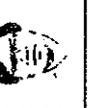
研修プログラム、講師の確定がおそいため、テキスト作成等に遅れを生じた。通産省・規格協会と日程作成を前広に行ない、適格な講師の人選とテキスト作成に万全を図る必要がある。

### (2) 講義の仕方

効果的講義の実施のためOHP等視聴覚教材をより一層使用する。また日本語資料については英訳して配布する。

LIST OF PARTICIPANTS IN "CERTIFICATION SYSTEM IN 1982"  
(平成元年年度 認証検査制度研修員リスト)

As of January 9, 1989 No. 1

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
1		Argentina アルゼンチン	Mr. Jorge Luis Montemurri	Jan. 15, '58 (31)	Principal Engineer for Inspection SONESA 国家製鉄所 検査技師	Metallurgical Engineering, National University of Technology	J.E. Buato, 506-2800-San Nicolas-Prov. de Buenos Aires
2		China 中国	Mr. Zhang Xin-Huai	Jul. 1, '55 (34)	Science Result Assessment and Application Engineer, Achievement Dep., Anhui Commission of Science and Technology 安徽省 科学技術成果獎	Electronics, (Heral Polytechnical University)	145 Chaobu Road, Hefei, China
3		Indonesia インドネシア	Ms. Chandrini M. Dewi	Aug. 8, '64 (25)	Staff in Standard Laboratory, Center for Testing and Quality Control, Dept. of Trade 貿易省 試験、品質管理センター標準研究所員	Food Technology, (Institute of Agriculture, Bogor)	Jl. Sunan Kalijaga 65 A Kebayoran Baru Jakarta Selatan
4		Iraq イラク	Mr. Nabel Mohammed Ribkhi	Jul. 1, '55 (34)	Ministry of Planning-Central Organization for Standardization 企画省 中央標準局	Fermentation, University of Mousal	Al-Kharada No.905-21-4
5		Korea 韓国	Mr. Yang Hae-Pyo	Jul. 31, '61 (28)	Consultant, Korean Standards Association 韓国工業標準協会コンサルタント	English/Economics, Han-Guk University of Foreign Studies	457-16, Shinyang 2-dong, Hanam-City, Kyongki-do
6		Madagascar マダガスカル	Mr. Rene Edmond Andriatandra	May 22, '60 (29)	Quality Control Inspector 品質管理検査官	Agronomy, University of Madagascar	Lot II Y 13 H Ambarajama Antananarivo -101- Madagascar
7		Malaysia マレーシア	Mr. Rosti Bin Shabuuddin	Apr. 4, '61 (28)	Research Officer, Standard & Industrial Research Institute S I R I M 調査官	Engineering, University of Technology	No.6, Jalan Enggang 21 Taman Keramat, 54200 Kuala Lumpur
8		Malaysia マレーシア	Mr. Abdul Jammi Karim	Dec. 8, '61	Research Officer, Standard & Industrial Research Institute S I R I M 調査官	Civil Engineering, University of Adelaide	3, Jalan Serindit 6/16 4000 Shah Alam, Selangor Darul Ehsan, Malaysia

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
9		Papua New Guinea パプアニューギニア	Mr. Matere Aiovey Mecklus	May 3, '57 (32)	Standards Division, Department of Trade and Industry 貿易工業省 標成局	Food Technology PNG University of Technology	Section 148 Alilment, 31 Boroko, P.O. Box 3891, Boroko, PH.25 2154 PNG
10		Singapore シンガポール	Mr. Phua Kim Chua	Feb. 23, '55 (33)	Senior Technical Officer, Singapore Institute of Standards & Analytical Research SIRIR 上級検査官	Electronic & Communication Engineering, Singapore Polytechnic Bachelor of Business Business Administration RMIT	21K 337 Beok North Nue 3 408-172 Singapore 2646
11		Saudi Arabia サウジアラビア	Mr. Fahad Al-Nassar	1964 (25)	Quality Control Engineer, Quality Mark & Certification Dept., Saudi Arabian Stds. Organization 品質マーカー認証部 QCエンジニア	Agriculture Engineering, King Saud University	Saudi Arabian Standards Organization P.O. Box 3437, Riyadh 11471, Saudi Arabia
12		Thailand タイ	Ms. Maneewan Tanthai	Feb. 17, '59 (39)	Food & Drug Technical Official 5, Food & Drug Administration Ministry of Public Health 保健省 食品医薬品部	Pharmacy, Chulalongkorn University	3/571 Chongwattana Road Tombol Tuysongkong, Bang-Khuen Bangkok, Thailand
13		Tunisia チュニジア	Mr. Farouk M'Hedhebi	Apr. 12, '51 (38)	Quality Control Engineer チュニジア標準化工業研究所 QCエンジニア	Technology, University of Tunisia	Cite Elcarane Supérieur-Rue 6235 No.20 2000 Le Bardo Tunis

認証検査制度コース 国別・年度別研修員受入実績表

年度 国名	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	計
【アジア地域】												
中 国							1	1	1	1	1	5
インドネシア	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
大 韓 民 国	1	1	1	1	1		1	1	1		1	9
マ レ イ シ ア	1	1		1				1		1	2	7
パ キ ス タ ン	1											1
フ ィ リ ピ ン	1	1		1	1	1				1		6
シ ン ガ ポ ー ル	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	10
ス リ ラ ン カ		1	1	1	1							4
タ イ			1	1	1	1			1	1	1	7
香 港			1	1	1	1		1	1			6
【中近東地域】												
エ ジ プ ト		1	1	1		1	1					5
イ ラ ン				1								1
イ ラ ク	1		1						1	1	1	5
サウディ・アラビア		1			1	1	1	1	1	1	1	8
シ リ ア										1		1
ト ル コ								1				1
チ ュ ニ ジ ア										1	1	2
【アフリカ地域】												
ガ ー ナ	1											1
象 牙 海 岸									1			1
マダガスカル											1	1
【中南米地域】												
ブ ラ ジ ル	1	1		1	1	1	2	1	1			9
チ リ							1	1	1	1	1	5
メ キ シ コ			1			1		1	1			4
ペ ル ー	1	1	1	1		1						5
ヴェネズエラ	1		1	1	1	1	1					6
アルゼンチン											1	1
【オセアニア地域】												1
パプア・ニューギニア											1	1
計	11	9	11	12	10	11	10	11	12	11	13	121

国際データ通信技術  
International Data Communications Engineering

1. 研修期間 コード: No. A0267  
 1990年1月8日～1990年3月18日 (70日間) 設立年度: 昭和56年度
2. 定員及び割当国  
 定員: 10名  
 割当国: 12ヶ国
3. コースの目的  
 国際データ通信システムにおけるデータ伝送技術、データ交換技術、プロトコール、データ端末に関する基礎的ならびに最新の技術、知識の習得を目的とする。
4. 到達目標  
 国際電気通信の分野において、データ通信システムの導入は世界的すう勢にある。よって先進諸国のみならず開発途上国にも含めたデータ通信網を形成・発展させるために、研修員が上記の基礎的ならびに最新の技術・知識を習得し、これら研修員が自国のこの技術分野における技術レベルを引き上げることを目標とする。
5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講義	データ通信の概要、技術の動向、データ交換技術 I (Packet Switching)、II (Circuit Switching)、III (構成、特長および設計) トラヒック理論およびルーティング、データ通信技術 I (伝送制御プロトコル X. 21, 71)、II (X. 25)、III (X. 32, 75. etc.)、IV (X. 28.29)、V (ポートプラン関連設備)、VI (OXI X.200) 光ファイバー、データ伝送技術 (Modem、DSU)、データ端末技術、通信ソフトウェア (HLL etc) 通信ネットワーク構築手法 Mail Box Service、G3/MHS、G4/MHS、MHS (X. 400)、VENUS-P (DS-20)、テレビ電話、TDMA/DSI、IBS、ISDM の概要 (TM)	19.5
実習	新宿通信センター実習	4
研修旅行 視察	KDDビル、二宮海底線中継所見学、KDD上福岡研究所、茨城県衛星通信所、大阪通信センター、NEC相模原工場、富士通小山工場、小山国際通信センター	8.5
カントリーレポート		1
グループ研究		
その他	ブリーフィング、オリエンテーション、評価会、閉講式、ファイナルテストなど	37

6. 研修実施協力体制

(1) 関係省庁：郵政省

(2) 研修委託機関：国際電信電話株式会社

7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
10	12	23	11	10	8	69	24

割当国及び受入人数〔( )内〕

インドネシア (0)、タイ (2)、中国 (0)、シンガポール (0)、クウェイト (1)、サウジアラビア (1)、エジプト (1)、ヴェネズエラ (1)、コロンビア (1)、ブラジル (2)、メキシコ (1)、フィジー (1)

8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

(1) 所見

受入先の受入態勢は万全であり、研修計画、講師の選定なども特に問題はなかった。

(2) 問題点及び改善点

イ. 研修項目について

いくつかの項目 (Intelligent Network Directory System Teleconference Systemなど) の追加希望、あるいは時間配分の変更要望があり、これらについては、次回研修日程計画時に検討の必要がある。

ロ. 見学について

日帰りの見学については、行程上時間が十分とれないものがあるので、今後行程の調整を図る必要がある。

LIST OF PARTICIPANTS IN "INTERNATIONAL DATA COMMUNICATIONS  
ENGINEERING COURSE, 1989"

国際協力事業団

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

(平成元年度 国際データ通信技術研修員リスト)

As of January 8, 1990 No. 1

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Home Address
1		Brazil ブラジル	Mr. Ney Leonardelli Soleidade ネイ	May 25, '50	Engineer Chief of Data Networks and Telematic System Planning and Designing Section Companhia Paranaense de Telecomunicações	Anita Gambaldi 359/502 90450 - Porto Alegre
2		Colombia コロンビア	Ms. Gloria Niño de Prieto グロリア	Sep. 3, '50	Systems Engineer MUSCO S.A.	Transv. 13B #128A-94
3		Egypt エジプト	Mr. Mamdouh Mohamed Farrag Helmy マムドゥーフ	Oct. 10, '61	Data Project Engineer ARETO	8 Selket Souk Elzaalat BAB Elsharie
4		Egypt エジプト	Ms. Zeinat Shehata Abd El Gaphar Ebrahim ゼイナット	Dec. 7, '57	Data Project Engineer ARETO	Suez-Port Tavfik Building of Suez Canal Authority 255/8
5		Fiji フィジー	Mr. Alan Petersen アラン	Sep. 10, '62	Engineer/Instructor Radio Department of Posts & Telecommunications	17 Raiwa Road Tavuva, Suva
6		Kuwait クウェート	Mr. Salah Ahmed Alghrib アルガリーフ	Feb. 26, '59	Ministry of Communication	Rosaitiah Block 5 St. 50, House No.17
7		México メキシコ	Mr. Oscar Ramirez Ballesteros オスカー	Sep. 12, '55	Product & Applications Engineer Communications Division Redes Via Satélite REDSAT.	Rupias #19 Col. Sison Boliver C.P. 15410 Cc. de Mexico
8		Saudi Arabia サウジアラビア	Mr. Abdulhameed M. Y. Al-Hamad ハミッド	Sep. 5, '64	Chief Special Services Circuit Design Saudi Telecom	P.O. Box 31590 Riyadh-11418 Al Shafa Area

No. 2

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Home Address
9		Thailand タイ	Mr. Sompol Chanprasert ポール Paul	Jun. 17, '52	Chief of Planning Section Telegraph Division The Communications Authority of Thailand	121 Soi Sai-Sin Prachachuen Road Bangkok 10800
10		Thailand タイ	Mr. Kraisob Sindhavananda クラソブ #7	Mar. 15, '53	Engineer Class 3 Telegraph Division The Communications Authority of Thailand	98/5 Navatanee Subplot 2 Bangkok 10240
11		Venezuela ヴェネズエラ	Mr. Raul I. Penso ラウル	Feb. 24, '47	Director of Analysis and Programming Consejo Supremo Electoral	Calle F Ota. Arco Iris URB. Vista Alegre Caracas

国際データ通信技術コース 国別・年度別研修員受入実績表

国名 \ 年度	計	56	57	58	59	60	61	62	63	元
〈 ア ジ ア 〉	36	4	5	4	6	4	5	3	3	2
中 国	4					1	1	1	1	
イ ン ド	1			1						
イ ン ド ネ シ ア	4		1			1	1		1	
大 韓 民 国	2		1	1						
マ レ イ シ ア	1				1					
パ キ ス タ ン	2				1		1			
フ ィ リ ピ ン	6		1	1	1	1	1	1		
シ ン ガ ポ ー ル	3	1	1		1					
ス リ ラ ン カ	2	1			1					
タ イ	11	2	1	1	1	1	1	1	1	2
〈 中 近 東 〉	19		2	2		4	2	1	4	4
エ ジ プ ト	6		1	1				1	1	2
ジ ョ ル ダ ン	3		1			1			1	
ク ウ ェ イ ト	5			1		1	1		1	1
サ ウ デ ィ ア ラ ビ ア	4					1	1		1	1
ア ラ ブ 首 長 国 連 邦	1					1				
〈 ア フ リ カ 〉	3		1	1	1					
ケ ニ ア	2		1		1					
マ ダ ガ ス カ ル	1			1						
〈 中 南 米 〉	32	4	4	3	3	3	4	5	2	4
ア ル ゼ ン テ イ ン	4		1	1		1		1		
ブ ラ ジ ル	10	2	1	1	1	1	2	1		1
コ ロ ン ビ ア	3							1	1	1
メ キ シ コ	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パ ラ グ ア イ	1				1					
ペ ル ー	1		1							
ベ ネ ズ エ ラ	4	1					1	1		1
〈 大 洋 州 〉	1									1
フ ィ ジ ー	1									1
合 計	91	8	12	10	10	11	11	9	9	11

※ 個別研修員は含まない。

国際電話通信技術  
International Telephone Communication Engineering

1. 研修期間 コード: No. A0212  
 1990年1月8日～1990年3月25日 (77日間) 設立年度: 昭和52年度

2. 定員及び割当国  
 定員: 12名  
 割当国: 16ヶ国

3. コースの目的  
 本コースは国際電話交換技術分野におけるデジタル交換システムの理論と設備の知識を習得させるとともに、施設の運用・保守の実務を習得させることを目的とする。

4. 到達目標  
 (1) 国際電話運用業務 (2) 交換技術要素 (3) 電子交換システムの基礎  
 (4) デジタル関連システム (5) デジタル交換システム (6) 電話交換保守運用  
 (7) ISDN (8) 関連技術を理解する。

5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講義	(1) 国際電話運用業務 (2) 交換技術要素 (3) 電子交換システムの基礎 (4) デジタル関連システム (5) デジタル交換システム (6) 電話交換保守運用 (7) ISDN (8) 関連技術を理解する。	21.0
実習	通信ソフトウェア・センター、小山国際通信センターにおいてXE-20システムについて操作・運用・保守等の実習を行う。	8.0
研修旅行	KDD施設、二宮海底線中継所、上福岡研究所、大阪通信センター、広島支店、日本電気(相模原)	11.0
カントリーレポート		1.0
グループ研究		
その他	郵政省表敬、開閉講式、プリテスト、フィナルテスト、レポート作成、エバリュエーション等	36

## 6. 研修実施協力体制

(1) 関係省庁：郵政省

(2) 研修委託機関：国際電信電話株式会社

## 7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
12	16	13	12	11	12	131	43

割当国及び受入人数〔( )内〕

スリランカ (1)、タイ (2)、中国 (1)、パキスタン (0)、ミャンマー (0)、モルディヴ (1)、エジプト (1)、クウェイト (1)、サウジアラビア (0)、アルジェリア (0)、エチオピア (1)、ジンバブエ (1)、マダガスカル (0)、モーリシャス (0)、ホンデュラス (1)、西サモア (1)、モンゴル (1)

## 8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

### (1) 所見

受入先が専任の研修担当を配し、専用の研修室を使用し、ティーチングマシンの活用をはかって行う研修はほぼ理想の形態と言える。従って研修員の満足度は極めて高く、グループ研修としては特別の問題点は見当らない程であった。

### (2) 問題点及び改善点

イ. 講師がより良い教授法をマスターする。

ロ. 研修員の質を揃える。

ハ. 上記不可の場合、夜間又は休日の個別研修を行う。

LIST OF PARTICIPANTS IN "INTERNATIONAL TELEPHONE COMMUNICATION  
ENGINEERING COURSE IN 1990"

国際協力事業団  
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

(平成元年度 国際電話通信技術研修員リスト)

As of January 8, 1990 No. 1

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth	Present Post	Home Address
1		China 中国	Ms. <u>Zhang Jian</u> ジャン	Nov. 2, '53	Engineer in Telecommunications Dep. of SPA 北京電通局	11, Xi Chang An He, Beijing, P.R. China
2		Egypt エジプト	Mr. <u>Hossam El Saobagn</u> ホサム	Nov. 23, '63	Engineer, International Switching Maintenance, A.R.N.A.N.I.C.O	18 Abo El Masseh El Shazly-Agouza Cairo, Egypt
3		Ethiopia エチオピア	Mr. <u>Tesfaye Ketema</u> テスファイ	May 20, '48	Engineer, Ethiopian Telecommunications Authority 電気通信省	C/O Gedamsh Mengistu General Post Office Box 1629 Ethiopia
4		Honduras ホンデュラス	Mr. <u>Dagoberto Mejia Amador</u> ダゴベルト	Nov. 3, '54	Chief of Maintenance Dept., Hondutel 中興通電機保守	Colonia Cerro Grande, Zone 2, C-13, B-27, Honduras, Central America
5		Kuwait クウェイト	Mr. <u>Yousuf Ali Al-Herz</u> ユサフ	1950	Chief of Approach Link in Mobile Section, Ministry of Communications 移動無線リンク主任	P.O. Box 11127-Dasman 35152, Kuwait
6		Maldives モルジブ	Mr. <u>Abdullah Sobah</u> ソバ	Dec. 4, '63	Technician, Dairaru Private Limited Male/Maldives	H. Dhigamane Muthee Goolhi Male'20-06 Republic of Maldives
7		Mongolia モンゴル	Mr. <u>Gelenkhuugjin Namsrai</u> ナムスライ	Mar. 20, '52	International Co-operation Department Officer Ministry of Telecommunication 通信省 国際協力局事務官	October Region, Hovs 5/89 Ulaanbaatar, MFR
8		Sri Lanka スリランカ	Mr. <u>L.F.M.P. Balapitiya</u> バラピティア	May 19, '61	Engineer, Overseas Telecommunication Service, Colombo 国際電話交換センター	'Ample' Thummodara Rd. Lunuwila, Sri Lanka

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth	Present Post	Home Address
9		Thailand タイ	Mr. Tejar Sookphadoong オット	Nov. 26, '52	Engineer, Class 6 Planning Section International Telephone Dep. 電気通信局	307/85 Lad Phrao Soi 1/ 140 Pacha Rd. Bangkok 10900, Thailand
10		Thailand タイ	Mr. Wicharn Freedatumpabut ワイチエン	Oct. 19, '64	Instructor, Telecommunication Training Center Telephone Organisation of Thailand 電気通信訓練センター	101/3 Soi Aledin Phahol Jochin Rd. Bangkok Bangkok 10900, Thailand
11		Western Samoa 西サモア	Mr. Kerape Iasa Tunuu ケン	Jun. 6, '51	Superintendent of Telephones, Central Post Office APIA, W. Samoa 電話局長 西サモア郵政省	P. O. Box 3615 APIA, Western Samoa
12		Zimbabwe ジンバブエ	Mr. Rowland Tendai Mhlanga ローランド	Jun. 22, '57	Senior Engineer, Switching International Planning and Development of National Telecommunication Trunk Exchanges plus the International Gateway Exchange ジンバブエ郵便及び電気通信公社	1171 Waterfalls Avenue, Houghton Park, Harare Zimbabwe

国際電話通信技術コース 国別・年度別研修員受入実績表

※ 個別研修員は含まない。

年度 国名	計	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元
〈アジア〉	63	5	5	2	6	6	6	4	5	3	5	5	5	6
バングラデシュ	2										1	1		
ブルネイ	1								1					
中国	4					1						1	1	1
インド	2										1	1		
インドネシア	6		2		1	1	1			1				
マレーシア	3				1	1	1							
モーリシャス	1												1	
パキスタン	4	1			1				1	1				
フィリピン	7	1	1		1		1	1	1		1			
シンガポール	9	2	1		1	1	1	2	1					
スリランカ	9			1		1	1	1	1	1	1		1	1
タイ	12	1	1	1	1	1	1				1	1	1	2
モルディブ	2												1	1
モンゴル	1													1
〈中近東〉	40	1	5	6	1	2	5	3	3	3	3	4	2	2
アフガニスタン	1		1											
アルジェリア	1			1										
エジプト	9			1			1	1	1	1	1	1	1	1
イラン	8	1	2	1		1	1			1		1		
イラク	3		2	1										
クウェイト	6				1	1	1					1	1	1
サウジアラビア	8			2			1	1	1	1	1	1		
スーダン	1										1			
トルコ	3						1	1	1					

※ 個別研修員は含まない。

年度 国名	計	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元
〈アフリカ〉	16				1		2	2	2	2	2	1	2	2
エチオピア	3											1	1	1
ガ ナ	2								1		1			
ナイジェリア	2									1	1			
ルワンダ	3							1	1	1				
タンザニア	1				1									
ウガンダ	2						1	1						
ザンビア	1						1							
ジンバブエ	2												1	1
〈中南米〉	23	3	1	3	2	1	1	2	1	3	3	1	1	1
ボリビア	1	1												
ブラジル	2	1								1				
チリ	2				1						1			
コスタリカ	1	1												
グアテマラ	1			1										
ホンデュラス	2												1	1
メキシコ	4							1		1	1	1		
パナマ	1						1							
パラグアイ	8		1	1	1	1		1	1	1	1			
ペルー	1			1										
〈大洋州〉	3												2	1
西サモア	2												1	1
フィジー	1												1	
合 計	143	9	11	11	10	9	14	11	11	12	13	10	12	12

デジタル交換技術（応用）  
Digital Switching Systems Engineering (Application)

1. 研修期間 コード：No. A0216  
 1990年1月11日～1990年3月22日（71日間） 設立年度：昭和53年度

2. 定員及び割当国  
 定員：15名  
 割当国：17ヶ国

3. コースの目的  
 開発途上国の電気通信の主管庁或いは、電気通信業務を提供する公共機関に勤務する者に対し、デジタル交換方式を中心とする最新の電話交換技術の知識と情報を提供し、以って開発途上国における電気通信事業の人材養成に寄与することを目的とする。

4. 到達目標  
 開発途上国における電話交換網の拡充整備並びに維持運営を効果的に実施できるよう、国内における最新通信技術の一つであるデジタル交換方式についてその特徴を理解させ、システム全般に関する技術知識を付与する。

5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講義	①デジタル交換技術（本体技術） ②周辺技術 ③計画・施設・保全及びトラヒック管理にいたる一連の業務	20
実習	D70形自動交換機の実習	10
研修旅行 視察	NTT中国支社、広島ネットワークセンター（NWC）、関西支社、松下電器、京都支社等	9
カントリーレポート		1
グループ研究		
その他	ブリーフィング、オリエンテーション、評価会、閉講式等	31

## 6. 研修実績協力体制

(1) 関係省庁：郵政省

(2) 研修委託機関：日本電信電話株式会社

## 7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
15	17	22	14	14	11	169	48

割当国及び受入人数〔( )内〕

中国(0)、インド(1)、スリランカ(0)、インドネシア(0)、タイ(1)、シンガポール(1)、イラン(1)、  
ジョルダン(1)、クウェイト(1)、トルコ(1)、ジンバブエ(1)、エクアドル(1)、メキシコ(1)、  
パナマ(1)、ペルー(1)、グアテマラ(1)、西サモア(1)

## 8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

### (1) 所見

#### イ. プログラム

全体的によく組まれていたが、実習を最後に一括して行うのではなく、各セッションの終り毎にもってくればより一層理解できたと思われる。

#### ロ. 研修員寸評

いつも陽気で楽しいグループだった。

#### ハ. 生活面等

TICH 食堂のメニューを時々変えて欲しいという意見が2～3人からあった。

### (2) 問題点及び改善点

イ. 関連講義毎に実習を行う。

ロ. 教官の英語力不足及び教え方の不十分さが目立ったので、これを改善する。特にテキストの棒読みは中止するようにする。

ハ. 一部テキスト内容の見直し。

LIST OF PARTICIPANTS IN "DIGITAL SWITCHING SYSTEMS  
ENGINEERING COURSE, 1989"

国際協力事業団  
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

(1989年度 デジタル交換技術 (応用) コース研修員リスト)

As of January 16, 1990 No. 1

No.	Photo	Country	Name	Organization	Mailing Address
1		China 中国	Mr. Mian-zhen Teng テン	Training Center of Beijing University of Posts & Telecommunications 北京郵電訓練センター	Rm. 20252, No.20 South Apartment Bldg., Beijing University of Posts and Telecommunications, Beijing CHINA
2		Ecuador エクアドル	Mr. Wilson Humberto Carrasco Pena ウィルソン	Ecuadorian Telecommunication Institute 厄瓜多爾電信公社	Los Rios 1449 y Oriente Quito, ECUADOR
3		Guatemala グアテマラ	Mr. Silvio Antonio Orozco Castillo アントニーノ	Guatemalan Telecommunications Company グアテマラ電信公社	Lote 6, Ms. Y Sector 4 Villas Club El Dorado, San Cristobal Zona 8, Mixco Guatemala, C.A. GUATEMALA
4		India インド	Mr. Dinesh Kumar Maheshwari ダイネン	Department of Telecommunications 電信公社	D.K. Maheshwari 14, Telecom. Colony Sajaj Nagar, Jaipur - 302017, INDIA
5		Iran イラン	Mr. Hassan Eshghdoost Khatami ハッサン	Telecom. Co. of Iran 電信公社	No.28 Jahangiri Ave. Arak City, IRAN
6		Jordan ジョルダン	Mr. Nizam Raji Khaili Haddadin ニザム	Telecommunication Corporation 電信公社	Madaba - P.O. Box 19 JORDAN
7		Kuwait クウェイト	Mr. Tareq Abdulla Ali Al-Ruwayeh タレク	Ministry of Communication 通信省	Quadsiah, Quarter St. 98 House 11, KUWAIT

No.	Photo	Country	Name	Present Post	Home Address
8		Mexico メキシコ	Mr. Sanchez Garcia Salomon サロモン	Telefonos de Mexico 電話会社	Seccion 48, Colinas Del Sur, Mexico, D.F. 01430
9		Panama パナマ	Mr. Roberto E. Alexander アレックス	Instituto Nacional de Telecomunicaciones 電気通信庁	Villa Lorena No.11 Apto. 11, PANAMA
10		Peru ペルー	Mr. Carlos Luis Herquinio Cristobal カルロス	Compañia Peruana de Telefonos S.A. 電話会社	Jr. Alemania No.2225 Lima 1 - PERU
11		Singapore シンガポール	Mr. Thio Buay Meng スィオ	Singapore Telecom 電気通信公社	BLK 524, BT Batok St. 52 #06-769, SINGAPORE 1365
12		Thailand タイ	Mr. Sutthisak La-orrotwong スチサイツク	Telephone Organization of Thailand 郵電総局	37/117 Muban Than Thong Phanom Charit Rd., Bangkok Amphur Bang Khen, Bangkok THAILAND
13		Turkey トルコ	Ms. Elmira Terkol エルミラ	Post, Telegraph & Telephone Directorate 郵電総局	35. Sokak 31/3 Sabacelliyer, Ankara TURKEY
14		Western Samoa 西サモア	Mr. Nicky Nun Yan ニッキー	Post & Telecommunications Department 郵電総局	Avele, Box 2325, Apia WESTERN SAMOA
15		Zimbabwe ジンバブエ	Mr. Elijah Chiremba エライジヤ	Zimbabwe Posts & Telecommunications Corporation 郵電公社	PTC SMG Group, Box 2580 Harare, ZIMBABWE

デジタル交換技術(応用)コース 国別・年度別研修員受入実績表

国 別	年 度	計	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元
〈ア ジ ア〉		63	7	2	7	5	5	8	5	5(2)	6(1)	6(1)	4(1)	3
インドネシア		9	1		3	1	1	1	1		1			
スリランカ		12	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
タイ		12			2	1	1	2	1	1	1	1	1	1
中国		5					1				1(1)	2(1)	1	
パキスタン		4						2	1		1			
バングラデシュ		1	1											
ミャンマー		1			1									
フィリピン		12	2	1		2	1	2	1	2(1)	1			
ネパール		1								1(1)				
インド		2										1		1
モルディブ		1										1		
韓国		1											1	
シンガポール		2											1	1
〈中 近 東〉		38	3	2	5	5	4	1	3	2	4	2	3(1)	4
イ ラ ク		5	2		2							1		
エ ジ プ ト		2				1	1							
オ マ ー ン		4	1			1	1				1			
ク ウ ェ イ ト		5			1	1						1	1	1
サウディアラビア		2			1						1			
ス ー ダ ン		6		1		1	1		1	1	1			
ジ ョ ル ダ ン		8		1	1	1	1	1			1		1	1
イ ラ ン		4							1	1			1	1
ト ル コ		2							1					1
〈アフリカ〉		19		1		1	4	1	3	4	1	1	2(1)	1
ケ ニ ア		6					1	1	1	1	1	1		
スワジランド		1					1							
タンザニア		4		1		1	1						1	
ナイジェリア		2					1			1				

年度 国別	計	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元
	マダガスカル	2							1	1			
ザンビア	1							1					
シエラレオーネ	1								1				
ジンバブエ	2											1	1
〈中 南 米〉	54	3	3	5	4	5	6	5	7(3)	5	2	4	5
エルサルバドル	1	1											
グアテマラ	7		1	1	1	1	1					1	1
コロンビア	2			1						1			
チリ	2		1	1									
ドミニカ共和国	3					1			1	1			
パラグアイ	6	1	1		1	1	1	1					
ブラジル	6			2	1	1	1			1			
ペルー	7						1	2(2)	2(1)			1	1
ボリビア	8	1			1	1	2	1	1		1		
パナマ	3							1			1		1
ホンデュラス	1								1(1)				
メキシコ	5								2(2)	1		1	1
エクアドル	2									1			1
アルゼンティン	1											1	
〈大 洋 州〉	8		1	1	1	1	1	1				1	1
西サモア	3					1						1	1
ハブアニューギニア	3		1	1	1								
フィジー	2						1	1(1)					
〈 欧 州 〉	1								1				
ユーゴスラヴィア	1								1				
合 計	183	13	9	18	16	19	17	17(3)	19(5)	16(1)	11(1)	14(3)	14

( ) : 単発・C/P研修員数

テレビジョン放送技術（上級）  
Colour Television Engineering (Advanced)

1. 研修期間 コード：No. A0263  
 1990年1月15日～1990年3月4日（49日間） 設立年度：昭和57年度

2. 定員及び割当国  
 定員：10名  
 割当国：12ヶ国

3. コースの目的  
 開発途上国でテレビ放送分野に従事し、基本的な技能を有する技術者に対し、その知識・技術をさらに高めると共にテレビ放送に関する最新の知識及び技術を紹介し、もって開発途上国におけるテレビ放送事業の人材養成に寄与する。

4. 到達目標  
 テレビ放送技術の基礎を有する者を対象に番組制作から送信・受信に至る放送技術全般に関しての応用技術の伸長をはかり、更に最新の放送技術についても修得し、自国に放送技術を導入する際に的確に対応しうる能力を身につける。

5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講義	カラーテレビ放送方式デジタル技術 映像特殊効果を含めたポストプロダクション技術 コンピュータグラフィクス技術 衛星放送技術 放送技術の最新の研究成果の概要、スタジオ機器、カラーカメラ、VTR、VTR編集機	17.0
実習	NHK放送研修センターの研修用設備による実習 日本放送協会放送センターにおける放送用施設による実習	5.0
研修旅行 視察	芝放送所、NHK放送センター、NHK熊本、東芝小向工場、池上通信機、日本電気（府中、九州）、マツダ	4.0
カントリーレポート		0.5
グループ研究		
その他	郵政省表敬、開閉講式、オリエンテーション、エバリュエーション等	22.5

## 6. 研修実施協力体制

- (1) 関係省庁：郵政省
- (2) 研修委託機関：財団法人NHK放送研修センター
- (3) 研修実施協力機関：日本放送協会

## 7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
10	12	20	10	10	7	69	26

割当国及び受入人数〔( )内〕

ブルネイ (0)、ミャンマー (0)、インドネシア (1)、スリランカ (1)、エジプト (1)、サウディアラビア (1)、ケニア (1)、シエラ・レオーネ (1) スーダン (1)、チリ (1)、メキシコ (1)、ペルー (1)

## 8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

### (1) 所見

講師の決定、講師と研修現場担当とのコミュニケーション、講師の事前準備については、全体としてかなり良く行われ、その結果研修員の満足度は高かった。研修員から改善点として挙げられたのは下記事項である。

### (2) 問題点及び改善点

- イ. 旧来の技術についての理論は短縮する
- ロ. 講義の後すぐ実習を行うようにする。
- ハ. ロスを減らすため英語で講義する。
- ニ. カントリーレポートの発表時間を延ばす。

以上5点のうち、イ、ニは次年度にとり入れることとした。ロ、ハは困難であるが、努力目標とすることとした。

LIST OF PARTICIPANTS IN "COLOR TELEVISION ENGINEERING (ADVANCED), 1989"  
(1989年度 テレビ放送技術(上)研修員リスト)

As of January 16, 1989 No. 1

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
1		Chile チリ	Mr. Oriel Alfredo Zepeda Egana オリエル	Dec. 29, '48	Technical Supervisor Televisión Nacional de Chile	Instituto Politécnico Universidad de Chile	Box 3, Nider 2883 Villa Valle de Los Heroes- Maipo Santiago Chile
2		Chile チリ	Mr. Luis Silva Tapia シルバ	Nov. 16, '53	Operation and Maintenance of Sound and Video Equipments	Catholic University of Chile	Onofre Jarpa 10356 La Reina Santiago Chile
3		Egypt エジプト	Mr. Hassan Hammed Farag ハッサン	Feb. 15, '41	Chief Engineer of T.V.-OB	Cairo University	10 Mostafa Maki Baban Mokkama Sq. Helioptles Cairo Egypt
4		Indonesia インドネシア	Mr. Zaenal Arreffien ゼナ	Apr. 20, '54	Maintenance, Denpasar TVRI Station	High School, Mojokerto	2/6. Gn. Broso 11/67 Denpasar Bali
5		Indonesia インドネシア	Mr. Dwi Suryanto トト	Dec. 6, '55	Staff of Studio Equipments Training Center	Industrial Academy	Societjo K. H. 1/82 Tegayakarta Indonesia
6		Indonesia インドネシア	Mr. Agus Cugito アグス	May 14, '54	Chief of Dispatch Room TVRI Jakarta Station (Television of The Rep. of Indonesia)	Technical High School	Jl. Mangur Besar No.1/207A Jabarata 10410, Indonesia
7		Kenya ケニア	Mr. Andrew Mangu Tinda チャング	Jul. 7, '57	Electronic Engineer Kenya Institute of Education	Kenya Polytechnic	P.O. Box 59 Kisumu Kenya
8		Malaysia マレーシア	Mr. Marjunit Bin Sunadi マズ	Feb. 23, '53	Senior Technical Assistant Radio Television Malaysia	University of Technology Malaysia	49 Jalan Selaseh 16 Taman Selaseh 2 68100 Batu Caves, Selangor Malaysia
9		Mexico メキシコ	Mr. Luciano Savedra Lecona サベドラ	Jan. 14, '52	Chief of Technical Area (Unit, Educational, Television) Public Education Secretary	Instituto Politécnico Nacional	Peterson Bosques de Bona No.14 Col. Bosques de Araucan C.P. 57170

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
10		Peru ペルー	Mr. Manuel Teodomiro Cabeza Espinoza マヌエル	Sep. 20, '56	Subchief of Broadcasting Area Instituto Nacional de Investigación y Capacitación de Telecomunicaciones	University "Ricardo Palma"	Jr. Banco Capac 7337-07b St. Trebo Los Olivos
11		Saudi Arabia サウジアラビア	Mr. Abdullah Akram アブドゥラ	Jan. 1, '59	Engineering Supervisor, Makah T.V. Center	Northrop University, U.S.A.	Makah, P.O. Box #6614 Saudi Arabia
12		Sierra Leone セイラレオン	Mr. Francis Bocharie Missalle フランシス	Dec. 3, '50	Engineer Sierra Leone Broadcasting Service	Odessa Electrotech. Institute of Communication U.S.S.R.	86 Bass Street B'fields Freetown
13		Sri Lanka スリランカ	Mr. Hewadewage Santin Fernando フェルナンデ	Feb. 24, '46	Senior Technical Officer Competent Authority Sri Lanka Rupavahini Corporation	University of Ceylon K.P.T. (Electronic Engineering)	No. 245 Allen Mawatha Kalamulla, Panadura, Sri Lanka
14		Sri Lanka スリランカ	Mr. Thenkutti Thausitha Sarath Manindradasa チェンクティ	Nov. 26, '44	Senior Technical Officer Sri Lanka Rupavahini Corporation	City and Guild of London Institute - Full Tech. (I. Eng. Amere)	1214 Dharmapala Ave. Dehiwala Sri Lanka Tel. 716289
15		Sudan スーダン	Mr. Alawia Hassan Fedol フェドル	Jan. 1, '54	VTR Engineer, Gairia T.V.	Khartoum Technical Institute	Sudan Television
16		Thailand タイ	Mr. Semer Prasongdel サマ	Oct. 7, '60	Maintenance Section	Bangkok Technical Institute	715 Banpleapi Bangkok 10250 Thailand
17		Thailand タイ	Mr. Arunpong Siri アRUNポン	Oct. 5, '62	Post Production Subotthai Traasatharat Open University	Srinakharin Wittol University Bangkok Campus	Subho Phaitthana Tharat Open University Bangkok Northchaur 11120 Thailand
18		Thailand タイ	Mr. Surasit Ueybhorn スラスット	Nov. 26, '48	Chief of T.V. Studio Section in Television of Thailand Channel 11	Kumpoongrat's Institute of Technology Ladkrabang Campus	40/216 Petchabuesee Road Bang Kapi District Bangkok Province Thailand Television of Thailand Channel 11 Wachaburi Road Bangkok 10110 Thailand

テレビジョン放送技術(上級)コース 国別・年度別研修員受入実績表

国名	63年度 までの 累計	実施回数(上段)及び年度(下段)							
		1	2	3	4	5	6	7	8
		57	58	59	60	61	62	63	元
(全地域)	79	9	11	10	10	8	11	10	10
(アジア地域)	24	4	4	5	3	1	3	2	2
ミャンマー	2				1		1		
インド	2		1		1				
インドネシア	5		1	1	1			1	1
大韓民国	3	1		1			1		
マレーシア	3			1		1	1		
フィリピン	3	1	1	1					
シンガポール	2	1	1						
スリランカ	3			1				1	1
ブルネイ	1	1							
(中近東地域)	23	4	4	3	3	2	3	2	2
エジプト	8	1	1	1	1	1	1	1	1
イラン	1	1							
ジョルダン	4			1	1	1	1		
カタール	2	1	1						
サウジアラビア	5		1		1		1	1	1
チュニジア	3	1	1	1					
(アフリカ地域)	14		1	1	1	3	1	3	3
ガーナ	1					1			
ケニア	6		1	1	1	1		1	1
シエラレオーネ	3						1	1	1
スーダン	3						1	1	1
ウガンダ	1					1			
(中南米地域)	18	1	2	1	3	2	3	3	3
チリ	3	1						1	1
ドミニカ共和国	2				1	1			
メキシコ	4					1	1	1	1
パナマ	2		1				1		
パラグアイ	4		1	1	1		1		
ペルー	3				1			1	1

教育テレビジョン番組（上級）  
Educational Television Programme (Advanced)

1. 研修期間 コード：No. A0290  
 1990年1月15日～1990年3月4日（49日間） 設立年度：昭和59年度

2. 定員及び割当国  
 定員：8名  
 割当国：11ヶ国

3. コースの目的  
 教育テレビ番組制作に携わるプロデューサー及びディレクターを対象に教育テレビ番組制作に関する知識ならびに技法を紹介する。

内容として、教育テレビ番組制作に焦点を合わせ研修を実施し、テレビによる教育の重要性の再認識及び番組制作に必要な企画力・演出技法等の修得を目的とする。また、併せて、放送分野の最新技術、将来の展望についても紹介する。

4. 到達目標
- 1) わが国の教育テレビジョン番組の特徴と制作システムを理解する。
  - 2) わが国におけるテレビジョン番組制作手法を習得し、各々の国の現場に技術移転出来る可能性を研修する。
  - 3) VTRロケーション、映像特殊効果等教育テレビジョン番組において用いられる主要な手法の特徴を体験する。
  - 4) 実際に教育テレビジョン番組を利用している現場に接するとともに、日本に対する理解を深める。

5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講義	教育テレビ番組の概念（番組研究、構成形式、スタジオショウ形式、ドラマタイズ、ドラマ番組、製作の要点講義形式）教育テレビ番組の製作技法（スタジオ実習）教育テレビ番組の応用的な制作技法	4.5
実習	スタジオ実習、ロケ下見、企画、番組構成、ロケ台本作成、ロケーション、グラフィック作成、編集、カット表作成、効果音の研究、収録、作品試写	15
研修旅行	NHK放送センター、ソニー・ショールーム、放送大学、NHK技術展、NHK地方局、学校放送利用現場、番組製作現場	9.5
カントリーレポート		1.5
グループ研究		
その他	ブリーフィング、オリエンテーション、評価会、閉講式	18.5

## 6. 研修実施協力体制

- (1) 関係省庁：郵政省
- (2) 研修委託機関：(財)NHK放送研修センター
- (3) 研修実施協力機関：日本放送協会

## 7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
8	11	24	12	9	5	49	29

割当国及び受入人数〔( )内〕

インドネシア(0)、パキスタン(1)、タイ(1)、シリア(1)、アルゼンティン(2)、ブラジル(1)、チリ(1)、メキシコ(2)、パナマ(0)、ペルー(2)、ユーゴスラヴィア(1)

## 8. 今年度の評価(所見、問題点及び改善点)

### (1) 所見(プログラム・研修員寸評・受入先等の対応、生活面等)

#### イ. プログラム

- ・研修員の希望を満たすべく柔軟なプログラム作りであったが反面、基本的な手法が明確でなかったため今後はより計画的なものが必要であると思われる。
- ・講師陣は優れた人が多いが、実習時のスタッフが英語ができるほうが望ましい。

#### ロ. 研修員寸評

- ・レベルの高い研修員がそろっており、上級コース運営上は問題なかった。

#### ハ. 受入先等の対応

- ・研修員の要望を出来るだけ取り入れ、非常に熱心に対応していた。

#### ニ. 生活面

- ・テレビ関係の研修員であることから日本の番組に大変興味があるため、皆TICの個室内にTV設置の要望が高かった。

### (2) 問題点及び改善点

イ. 研修員の視覚要件をテレビ放送局の関係者のみにしバック・グラウンドの統一を図る。(これまでは大学や省庁関係者も参加していた。)

ロ. カントリーレポートのクエスチョンネアをマトリックス方式にし、必要情報を入れてもらうようにする。又、発表方法を明確にする。

ハ. 制作番組の見学を増やす。

ニ. 民放局の見学についても検討する。

LIST OF PARTICIPANTS IN "EDUCATIONAL TELEVISION PROGRAMME (ADVANCED), 1989"

(平成元年度 教育テレビジョン番組(上級)研修員リスト)

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
1		Argentina アルゼンチン	Ms. Patricia Dora Martin Garcia パトリシア	Apr. 13, '56 (33)	Direction and Production of Educational Documentaries, Faculty of Architecture, Design and Urbanism University of Buenos Aires	National Film and Television School * Film Making	Pasteur 76, piso 5K, Capital Federal, ARGENTINA
2		Argentina アルゼンチン	Ms. Adriana Elvira Garcia アドリアナ	Nov. 14, '61 (28)	Producer & Script Writer of Educational and Information TV Programs, Technical Television School, National Council of Technical Education	National Superior Institute of Professors	3525 Juan B. Alberdi, Av. 1st. E. ZIP 1407 -Capital Fede ARGENTINA
3		Brazil ブラジル	Mr. Alfredo Carlos Pedrize アルフレド	Nov. 22, '53 (36)	President, Educative Radio & TV Foundation	Pontefice Catholic University, * Social Communication	Rue Afonso Alvarez, 172 Riztera Porto Alegre-PS BRASIL
4		Chile チリ	Mr. Alejandro Rojas アレハンドロ	Sep. 4, '50 (39)	Television Programme Director, CANAL 13 - Corporacion De Television De La Universidad Catolica De Chile	Chile University * Engineering	El Canon 19180, Santiago CHILE
5		Chile チリ	Ms. Pilar Henriquez ピラール	Mar. 15, '50 (39)	Television Programme Producer, CANAL 13 - Corporacion De Television De La Universidad Catolica De Chile	University Catholic * Pre-School Teaching Direction of TV Programmes	Lyon 2387 Depto 301 Providencia Santiago CHILE
6		Mexico メキシコ	Ms. Luz Del Carmen Victoria Lopez Vergara L. ルス	Dec. 23, '51 (37)	Producer and Director, General Direction of Television, TV UNAH	Tecnica Publicitaria * Advertising and Marketing UNAH * Biology	CDA, Teneven 17-3 Col, San Jeronimo, Lidice, Del. Magdalena Contreras CP. 10200, MEXICO
7		Mexico メキシコ	Mr. Nefthali Enrique Penafior Valdez ネフタリ	Mar. 6, '55 (34)	TV Producer, Secretaria De Educacion Publica Unidada De Television Educativa (U.T.E.)	U.N.F.P. Acatlan U.N.A.M. * Mass Media	Atecas 110 Col. Romana Tlalampantla Ede. DE MEXICO
8		Pakistan パキスタン	Mr. Muhammad Iqbal (Jozi) ジョズィー	Apr. 12, '47 (42)	Senior Producer, Institute of Educational Technology Allama Iqbal Open University, Islamabad	University of Punjab * Philosophy	H.NO. 548, St. 80, G-6/1, Islamabad, PAKISTAN

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
9		Peru ペルー	Ms. Maria Teresa Alicardi Uzategui マリテ	Sep. 5, '43 (46)	Administrative and Technical Assistant, Junta Del Acuerdo De Cartagena Andean Television Programme	Catholic University * Liberal Arts	Malecon Arcecondariz 211, Dpt. 51, Maraflores, Lima, PERU
10		Peru ペルー	Ms. Nelly Ines Carrero Peña ネリー	Jun. 15, '47 (42)	Producer of Educational TV Programmes for Parents, National Institute for Teleeducation, Educational Ministry	Institute Superior Formacion Magisterial Breña * Teacher Primary	Jr. Azafrañes 164 Salamanca De Monterrico Ara/Lima PERU
11		Syria シリア	Mr. Abu Okdeh Rezk レズク	1963 (26)	Producer & Director, General Directorate of Radio & TV	Damascus University * English Literature Information Institute * Journalist: Photograph	Khatib Avenue 7, Bldg. 114, Damasqus SYRIA
12		Thailand タイ	Ms. Duangkamol Sri-itsraporn (Toy) トイ	Apr. 4, '60 (29)	Editor (TV Producer/Director), Center for Educational Technology, The Department of Non-Formal Education, Ministry of Education	Chulalongkorn University * Theatre Arts	43/1 Mu 3 Champsee Road, Talingchan, Bangkok 10170, THAILAND
13		Thailand タイ	Ms. Kloykamon Quanyuangpan (Juang) ジュアン	Apr. 14, '58 (31)	Product, Public Relations Department, Television of Thailand Channel 11	Chulalongkorn University * Communication Arts (Radio & Television)	23/99 Bangna-Trad Road, Central 2, Bangpoo, Samutprakan 10540, THAILAND
14		Thailand タイ	Ms. Ampawan Charoenkui (Neng) ネン	May 20, '55 (34)	Foreign News Editor, Public Relations Department, Television of Thailand Channel 11	Chiangmai University	35 Omei, Krathumbun, Samutre - Sakorn 74130, THAILAND
15		Yugoslavia ユーゴスラビア	Mr. Milan Knezevic ミラン	Jan. 2, '53 (36)	TV and Film Director, Television Beograd	University of Beograd * Dramatic Arts-Directing Dept. TV, Theatre, Film and Radio Director	Filipa Vismjica 42,11080 Zemun-Beograd YUGOSLAVIA

\* 個別研修員

教育テレビジョン番組（上級）コース 国別・年度別研修員受入実績表

※ 元年度より個別研修員は実績に含めない。

(単位：人)

国名	元年度 までの 累計	1	2	3	4	5	6	国名	元年度 までの 累計	1	2	3	4	5	6
		59	60	61	62	63	元			59	60	61	62	63	元
(全地域)	61	8	8	11	11	11	12	(中近東地域)	11		2	2	5	1	1
(アジア地域)	18	4	3	1	4	4	2	アフガニスタン							
バングラデシュ	1	1						アルジェリア							
ブータン								バーレーン	1				1		
ミャンマ								エジプト	2		1		1		
カンボジア								イラン							
中国								イラク	1				1		
インド								イスラエル							
インドネシア	4	1	1		1	1		ヨルダン							
大韓民国	1					1		クウェート							
北朝鮮								レバノン							
ラオス								リビア							
マレーシア	3	1		1	1			モロッコ	1				1		
モルジブ								オマーン							
モンゴル								カタール							
ネパール								サウディ・アラビア	2			1	1		
パキスタン	4	1	1			1	1	アスーダン	1		1				
フィリピン	1		1					シリア	2					1	1
シンガポール	1				1			チュニジア	1			1			
スリランカ								トルコ							
タイ	3				1	1	1	イエメン							
ベトナム								南イエメン							
ブルネイ								アラブ首長国連邦							
台湾															
香港								(アフリカ地域)	5	2		2	1		
マカオ								アンゴラ							
マラッカ								ベナン							
								ボツワナ							

(単位:人)

国名	元年度 までの 累計	1	2	3	4	5	6	国名	元年度 までの 累計	1	2	3	4	5	6
		59	60	61	62	63	元			59	60	61	62	63	元
ブルンジ								セネガル							
カメルーン	1			1				セイシェル							
カーボ・ヴェルデ								シエラ・レオ〜ネ							
中央アフリカ								ソマリア							
チャド								南アフリカ							
コモロ								スワジランド							
コンゴ								タンザニア							
ジブチ								トーゴ							
赤道ギニア								ウガンダ	1	1					
エチオピア								ブルキナ・ファソ							
ガボン								ザール							
ガンビア								ザンビア							
ガーナ	2	1		1				ジンバブエ							
ギニア	1				1										
ギニア・ビサウ								(中南米地域)	24	2	3	3	3	5	8
象牙海岸								アンティグア							
ケニア								アルゼンチン	2						2
レソト								バハマ							
リベリア								バルバドス							
マダガスカル								ベリーズ							
マラウイ								ボリビア							
マリ								ブラジル	2					1	1
モーリタニア								チリ	2					1	1
モーリシャス								コロンビア	1		1				
モザンビーク								コスタ・リカ							
ニジェール								キューバ							
ナイジェリア								ドミニカ							
ルワンダ								ドミニカ共和国	1			1			
リクトメナリソシバ								エクアドル							

(単位:人)

国名	元年度 までの 累計	1	2	3	4	5	6	国名	元年度 までの 累計	1	2	3	4	5	6
		59	60	61	62	63	元			59	60	61	62	63	元
エル・サルヴァドル								西サモア							
グレナダ								キリバス							
グアテマラ								トウバル							
ガイアナ								ソロモン諸島							
ハイチ								米領太平洋諸島							
ホンデュラス								ミクロネシア							
ジャマイカ								ヴァヌアツ							
メキシコ	6		1	1	1	1	2	マリアナ諸島							
ニカラグア								マーシャル							
パナマ	3	1			1	1		パラオ							
パラグアイ								西カロリン諸島							
ペルー	7	1	1	1	1	1	2	ヤップ島							
スリナム															
セント・ルシア								(ヨーロッパ地域)	3			1		1	1
セント・ビンセント								アルバニア							
トリニダード・トバゴ								サイプラス							
ウルグアイ								チェコスロヴァキア							
ヴェネズエラ								ギリシャ							
蘭領アンチル								ハンガリー							
								ポーランド							
(オセアニア地域)								ポルトガル							
クック諸島								ルーマニア							
フィジー								ユーゴスラヴィア	3			1		1	1
フレソチボリネシア															
ナウル															
ニウエ															
ニュー・カレドニア															
バブア・ニューギニア															
トンガ															

## データ通信技術 Data Communication Engineering

1. 研修期間 コード: No. A0288  
 1990年1月15日～1990年3月8日 (53日間) 設立年度: 昭和58年度

2. 定員及び割当国  
 定員: 10名  
 割当国: 11ヶ国

3. コースの目的  
 本コースの目的は、発展途上国の電気通信の主管庁或いは電気通信業務を提供する公共機関に勤務するデータ通信制作の立案、実行に携わる者に対し、講義及び実習等を通じデータ通信技術に関する基礎的、実用的な知識と情報を提供し、もって発展途上国のデータ通信の発展に寄与せんとするものである。

4. 到達目標  
 発展途上国においては、データ通信システムの計画段階、或いは導入の初期段階にあるのが現状である。  
 従って、これら発展途上国からの参加者を対象とする本コースは、最適なるデータ通信網の構築並びにデータ通信システムの円滑なる保守運用を計るためのデータ通信システム全般の概要を理解せしめることを目標とする。

5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講義	①通信網概論 ②データ通信の基礎技術 ③データ交換方式 ④データ通信システム ⑤保全管理	15.5
実習	データ交換機D-50を用い、交換機の運用・操作・保守に関する実習を行う	2
研修旅行 視察	NTT中国支社、広島ネットワークセンター、関西支社、松下電器、京都支社等	9.5
カントリーレポート		1
グループ研究		
その他	ブリーフィング、オリエンテーション、評価会、閉講式等	25

## 6. 研修実施協力体制

- (1) 関係省庁：郵政省
- (2) 研修委託機関：日本電信電話株式会社

## 7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
10	11	21	13	11	6	72	26

割当国及び受入人数〔（ ）内〕

中国（1）、インドネシア（1）、大韓民国（1）、シンガポール（1）、スリランカ（1）、ブラジル（2）、メキシコ（1）、ペルー（2）、タイ（1）、クウェイト（1）、サウジアラビア（1）

## 8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

### (1) 所見

#### イ. プログラム

昨年度に比べ全体で一週間短くなったため、実習が2日間しかなく、研修員にとっては不満足だった。

#### ロ. 研修員寸評

研修員同志とても仲が良かった。

#### ハ. 生活面等

TIC宿泊でとくに不便はなかったようだが、TICとNTTの食事のメニュー改善の要望があった。

### (2) 問題点及び改善点

イ. 経験のある講師をもっと増やす。

ロ. 新しい技術に関するテキストを整備する。

LIST OF PARTICIPANTS IN  
"DATA COMMUNICATION ENGINEERING COURSE, 1989"  
(平成元年度 データ通信技術コース研修員リスト)

As of January 19, 1990 No. 1

No.	Photo	Country	Name	Organization	Mailing Address
1		Brazil ブラジル	Mrs. Eliane Valente	Telecomunicações de São Paulo 電気通信公社	R. Sao Prospero, 35 03324 - Sao Paulo (SP), Brazil
2		Brazil ブラジル	Mr. Wilton Farias Da Silva	Telecomunicações de Pernambuco 電気通信公社	Rua Ricardo Salazar, 187/201 - P.O. Box 10000 - Recife - CEP-50720 - Recife - Pernambuco - Brazil
3		China 中国	Ms. Yan-Rong Shen	Beijing Posts and Telecommunications Training Center 郵便訓練センター	Beijing University of Posts and Telecommunications Training Center, 156 Mail Box, China
4		China 中国	Ms. Yixian Yang	Computer Center of Jiangxi Metallurgical Bureau 江西省冶金局	Jiangxi Metallurgical Industrial Bureau, 5#, Beijing Alley, Nanchang, Jiangxi, P.R. China
5		Indonesia インドネシア	Mr. I Gede Mendra	Surebaya Telekomunikasi 電気通信公社	Jl. Ketintang Barat IV/4, Sureabaya, Indonesia
6		Korea 韓国	Mr. Ahn, Hyo-Beom	Ministry of Communications 通商省	Telecom. Policy Bureau, Ministry of Communications, Seoul 110-777, Korea
7		Kuwait クウェート	Mr. Yaqoub Abdullah Habib	Ministry of Communications 通商省	Ministry of Communication, TTC, 10th Floor, Kuwait
8		Mexico メキシコ	Mr. Carlos Alpizar Garcia	Secretaria de Comunicaciones y Transportes 運輸通信省	Unidad El Arbolillo Edificio 10-B, Depto. 201, Zone 1, C.P. 07240, Mexico D.F.

No.	Photo	Country	Name	Organization	Mailing Address
9		Peru ペルー	Mr. Juan Eugenio Cortes Rodriguez	Empresa Nacional de Telecomunicaciones 電気通信公社	Calle "E" (S) No.249, URB. Carrera De La Merced - Surquillo, Lima 34 - Peru Tl: 490509
10		Peru ペルー	Mr. Julio Cesar Gonzalez Prado	INMTEL 電気通信研究訓練所	Peje Bremner 151 - Lima 11 - Peru
11		Saudi Arabia サウジアラビア	Mr. Alassaf Fahad Mohammed	General Department of Telecommunications Ministry of Interior	P.O. Box 57236, Riyadh 11574 Saudi Arabia
12		Singapore シンガポール	Mr. Chan Chor Seng	Singapore Telecom 新加坡電信局	Block 29 Havelock Road #02-611 Singapore 0816
13		Sri Lanka スリ・ランカ	Mr. Wellage Kumarasiri Perera	Department of Telecommunications, Sri Lanka 通信局	No.14/3 Vajira Road, Colombo Sri Lanka
14		Thailand タイ	Mr. Surachai Janjaruswattana	Planning Sector Project Management Department Telephone Organization of Thailand 9th Floor Uniwast Building, Ploenchit Bankot 10330 Thailand 電話公社	905/2 Sukhothavit Rd. Mahachulalongkornrajavidyalaya A. Poomy, Samutsaen 74000 Thailand

データ通信技術コース 国別・年度別研修員受入実績表

国名 \ 年度	計	58	59	60	61	62	63	元
〈アジア〉	29	4	3	4	4	5	3	6
ブルネイ	1			1				
中国	5				1	2	1	1
インドネシア	4	1				1	1	1
韓国	3					1	1	1
マレーシア	3	1	1	1				
パキスタン	1				1			
フィリピン	1		1					
シンガポール	2	1						1
スリランカ	2				1			1
タイ	7	1	1	2	1	1		1
〈中近東〉	16	2	3	3	3	1	2	2
ジョルダン	2		1			1		
クウェート	4		1	1			1	1
サウディアラビア	6	1	1	1	1		1	1
チュニジア	1				1			
トルコ	2			1	1			
アラブ首長国連邦	1	1						
〈アフリカ〉	4	1			1	1	1	
ケニア	4	1			1	1	1	
〈中南米〉	36	7	6	4	4	6	4	5
ボリヴィア	1			1				
ブラジル	11	2	2	1	2	1	1	2
チリ	3	1		1		1		
コロンビア	1	1						
エクアドル	1		1					
ホンデュラス	1					1		
メキシコ	9	1	2	1	2	1	1	1
パナマ	2	1				1		
ペルー	7	1	1			1	2	2
計	85	14	12	11	12	13	10	13

コンテナ埠頭整備計画  
The Development of container Terminal

1. 研修期間 コード：No. A0331  
 1990年1月15日～1990年3月10日（55日間） 設立年度：昭和59年度

2. 定員及び割当国  
 定員：8名  
 割当国：10ヶ国

3. コースの目的

本件コースは我が国技術協力計画の一環として実施されるもので、開発途上国におけるコンテナ・ターミナルの開発、計画、建設及び保守管理の改善と発展に寄与することを目的に実施するものである。

実施にあたっては、講義、討論、演習ならびに見学旅行を通じ、コンテナ・ターミナル計画及び建設に従事する実務技術者の養成をめざして実施するものである。

4. 到達目標

(1) 発展途上国の港湾管理運営に携わる人材が、わが国のコンテナ化の歴史的経緯及び現状を理解し、またコンテナ輸送の将来の進路を概観することにより、それぞれの国の現状を踏まえた最適なコンテナ化のあり方を見出す。

(2) コンテナ・ターミナルの効率的運用の観点から、ターミナルの配置、基本設計及び維持管理に係わる基本的知識を修得する。

5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講義	①日本の港湾、コンテナ埠頭の概要 ②コンテナライゼーションとコンテナ輸送システム ③コンテナターミナルのプランニングについて講義を行う。	13
実習	神戸港ケーススタディ 神戸港の概要、近畿地域のコンテナ物流、公共コンテナバースの管理、運営、コンテナターミナルの概要、船用コンテナ、荷役関連機器のメンテナンス、コンテナターミナルのコンピューター化とその運用、関税業務、その他	5
研修旅行 視察	東京港、横浜港、名古屋港、那覇港、清水港など	8
カントリーレポート		2
グループ研究		
その他	ブリーフィング、オリエンテーション、評価会、閉講式等	27

## 6. 研修実施協力体制

(1) 関係省庁：運輸省

(2) 研修委託機関：国際臨海開発研究センター

## 7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
8	10	17	10	9	5	41	21

割当国及び受入人数【( )内】

スリランカ (1)、インド (1)、マレーシア (2)、フィリピン (1)、アルジェリア (1)、イラン (1)、サウジアラビア (1)、ケニア (1)、ジャマイカ (0)、パナマ (1)

## 8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

### (1) 所見

イ、プログラムは良く組まれていたが、東京での講義と神戸でのケース・スタディの時の講義と一部重複があったので、来年度はさける必要がある。

ロ、研修員の年令、経験、レベルに大きな違いがあり、理解度もかなりバラツキがあったが、アルジェリアの研修員がホームシックで1日欠席した他は、全員無欠席だった。

ハ、受入先は、講師、施設共に大変良かった。

ニ、生活面では、イスラム教徒が多いため食物に苦勞していたようだが、自由時間は生活を楽しんでいた。

### (2) 問題点及び改善点

採用時（選考する時）に、本コースの目的に沿った研修員を受入れると同時に、G・Iの記載も、年令、経験、程度などをもっと詳しく記載する必要がある。

LIST OF PARTICIPANTS IN "DEVELOPMENT OF CONTAINER TERMINAL, 1980"  
(平成2年秋 コンテナ埠頭整備研修風リスト)

as of January 15, 1990

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
1		Algeria アルジェリア	Mr. Amor <u>Yehl</u> ヤヘ	Sep. 26, '49 (40)	Director, Port Planning, Port of Annaba アルバナ港務公社 計画部長	University of Algiers	17, Boulevard Benbouadjamel Annaba Algeria
2		India インド	Mr. S. Anantha Chandra <u>Bose</u> ボース	Aug. 15, '57 (32)	Deputy Traffic Manager, Cochinmar Terminal, Madras Port Trust. マドラス埠頭公社 コンチナマール埠頭局長	Loyola College Madras (1979)	5A, DSA Tower Block Madrasam, Madras-600 035 Thani Nedu, India
3		Iran イラン	Mr. Menouchehr <u>Esclatmandi</u> エスカトマンディ	Mar. 20, '44 (45)	Deputy Director, General of Port Operator 道南運輸社 船務船務所 次長	Faculty of Commercial (1978)	Iran Bandar Abbas Port Shahid Rajee
4		Kenya ケニア	Mr. Manasse <u>Oburu</u> オブール	Aug. 9, '45 (44)	Commercial Officer, Kenya Ports Authority ケニア港務公社 通関課長	Puwani (1963)	Box 59244 Nairobi Kenya
5		Malaysia マレーシア	Mr. Haji Ishak Bin Hj. <u>Yahya</u> ハジ	Mar. 14, '44 (45)	Asst. Traffic Manager, Penang Port Commission ペナン港務公社 運輸課長補佐	University of Malaya (1974)	57, Lembok Stalep Satu, Seberang Jaya 13750 Prai, Penang, Malaysia
6		Malaysia マレーシア	Mr. Abdul Karim Bin <u>Buyong</u> カリム	Sep. 9, '48 (41)	Asst. Port Officer, Kuantan Port Authority クワンタン港務公社 訓導課長	Malum Secondary School (1980)	204 Bolok Way Balok, 20100 Kuantan, Pahang Kuching, Malaysia
7		Panama パナマ	Mr. Francisco Javier <u>Gonzalez</u> Hernandez ゴンザレス	Dec. 28, '54 (35)	Cargo and Container Clerk, National Port Authorities, Port of Balboa パナマ港務所 パナマ港務事務所 コンテナ課長補佐	University of Panama (1977)	16 Street East-6-36 Panama P.O. Box 6-4338-Correda Panama
8		Philippines フィリピン	Mr. Virgilio R. <u>Padas</u> パダス	Jul. 25, '49	Team Supervisor, Philippine Ports Authority フィリピン港務公社 マニラ港務局 南地区ターミナル管理官	University of Nueva Caceres (1977)	Blk. 67, Lot 1 Marco Subdivision Newville, Quezon City Philippines
9		Saudi Arabia サウジアラビア	Mr. Yassin Yassin B. <u>Mohammad,</u> Ali ヤシン	Jan. 15, '50 (40)	Co-Director of Customs Affairs in Jeddah Sea Port, Jeddah ジェダ港務局長	King Abdulaziz University (1974) Arzanaw State University (1982)	P.O. Box 19216 Jeddah Saudi Arabia
10		Sri Lanka スリランカ	Mr. Waseetha <u>Yassin</u> ヤシン	Sep. 30, '55 (34)	Superintendent (Operational) Sri Lanka Port Authority スリランカ港務公社 所長	University of Colombo/ Development Studies (1979)	9/1 A, Pirivieva Road Aclonave, Colombo Sri Lanka

コンテナ埠頭整備計画コース 国別・年度別研修員受入実績表

年度 国名	59	60	61	62	63	元	合計
(アジア地域)	5	5	3	2	5	5	25
中国	1	1					2
インド				1	1	1	3
インドネシア	1						1
大韓民国					1		1
マレーシア	1	1	1		1	2	6
パキスタン	1						1
フィリピン	1	1			1	1	4
シンガポール		1	1				2
スリランカ			1	1	1	1	4
タイ		1					1
(中近東地域)	1	1		1	2	3	8
アルジェリア						1	1
エジプト	1	1		1			3
イラン					1	1	2
サウジアラビア					1	1	2
(アフリカ地域)		1		1	1	1	4
ケニア				1	1	1	3
ナイジェリア		1					1
(中南米地域)	3	2	4	4		1	14
ブラジル			2	1			3
チリ				1			1
コスタリカ	1	1					2
メキシコ	1	1		1			3
パナマ			2	1		1	4
ペルー	1						1
合計	9	9	7	8	8	10	51

## 繊維製品検査技術

### Inspection and Testing Techniques for Textile Products

1. 研修期間 コード: No. A0417  
 1990年1月15日～1990年3月15日 (60日間) 設立年度: 昭和63年度

2. 定員及び割当国  
 定員: 5名  
 割当国: 7ヶ国

3. コースの目的  
 この研修の目的は、発展途上国が繊維製品の品質向上と維持が自ら図られること、国際競争力を付けること等を期待し、座学と実習による繊維製品検査・試験技術を紹介するものであり、このことが我が国の貿易インバランス解消の一助となることを期待している。

4. 到達目標
- (1) 輸出検査法の概要、家庭用品品質表示法の概要、工業標準化法の概要、有害物質を含有する家庭用品規制法の概要の把握。
  - (2) 検査・試験技術の習得、試験装置の一般的知識の習得。
  - (3) 製造・加工行程視察による実態把握。

5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講義	a) 輸出検査法概論    b) 家庭用品品質表示法概論 c) 工業標準化法概論    d) 有害物質を含有する家庭用品規制法概論 e) 商取引上求められる各種品質情報の説明	16.0
実習	a) 上記に関する検査・試験技術講習 *縫製品 (メリヤス製品を含む) *織物 (メリヤス生地を含む) b) 試験機器類の使用法等に関する学習	11.0
研修旅行視察	(株) クロージング、(株) 西友、(株) 東洋紡 (伊勢)、(株) 丸松 (大阪)、 (株) 川島織物 (京都)、(株) 大同マルク染工 (京都)、西陣織物会館 (京都)、 通産検査所内	7.0
カントリーレポート		1.0
グループ研究		
その他	通産検オリエンテーション、エバリュエーション、閉講式他	25.0

## 6. 研修実施協力体制

- (1) 関係省庁：通商産業省
- (2) 研修委託機関：財団法人日本メリヤス協会
- (3) 研修実施協力機関：通産産業検査所、(財)日本化学繊維検査協会、  
(財)縫製品検査協会

## 7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
5	7	5	5	5	1	7	7

割当国及び受入人数〔( )内〕

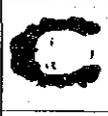
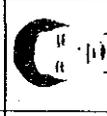
中国 (1)、インドネシア (1)、大韓民国 (0)、フィリピン (1)、タイ (1)、パラグアイ (1)、  
サウディアラビア (0)

## 8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

- (1) 主たる研修先（通産検）がTICに隣接していることは、研修員にとって大変恵まれた条件であった。定員が少ないこともあり、大変木目細かく研修機関の担当者が面倒を見、対応も非常に良かった。
- (2) コースの研修員5名の他に個別研修員1名（C/P、フィリピン）が加わり実質的には6名の参加者であったが、各人の専門に合わせてカリキュラムを調整すること迄は手が届かず、この点に不満があったようだったが、これを行うとすれば期間を延長しなければならず、将来の課題として検討する。（次年度は期間を延長）
- (3) 科目の選択と時間配分には特に問題はなかったが講義のやり方に改善の余地が認められた。いきなり講義を行うのではなく、予めニーズについて調査し、その結果によって講義の内容を決める、というやり方を採用できないかという研修員からの提言を今後検討することとしたい。

LIST OF PARTICIPANTS IN "INSPECTION & TESTING TECHNIQS FOR TEXTILE PRODUCTS, 1989"  
(平成元年年度 繊維製品検査技術研修員リスト)

As of January 16, 1990

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
1		China 中国	Mr. Liu Jiayou リュウ	May 16, '52 (37)	Textile Inspection Engineer, Tianjin Import & Export Commodity Inspection Bureau 国家進出口商品検査局 天津商検局検査員	Tianjin Institute of Textile Science & Technology 天津紡織工業学院 紡織学部	6, Pekou Road, West Dist., Tianjin
2		Indonesia インドネシア	Ms. Sri Redjeki スリ	Apr. 16, '52 (37)	Testing Officer, Lab. for Physical Testing for Textile, Institute for Research & Development of Textile Industry 繊維工業開発研究所 繊維製品物性試験官	Institute of Textile Technology, Bandung バンドン繊維技術学院 紡織、製織、製綿学科	Jl. Sumbeudu 227 Bandung 40264
3		Paraguay パラグアイ	Ms. Estela Olvina Chena de Kalmiuszka スリ	Mar. 8, '60 (29)	Chief, Quality Control Dept., Ministry of Industry & Commerce 高工省 品質管理アドバイザー	Faculty of Chemical Science, National Univ. of Asuncion アスンシオン国立大学 化学工業科	Gen. Diaz, 220-211ar
4		Philippines フィリピン	Ms. Lillian Ong Abilera アビエラ	Mar. 9, '57 (32)	Science Research Specialist, Philippine Textile Research Institute, Dept. of Science & Technology 科学技術省 フィリピン繊維研究所研究員	Adanson University, B.S. Chemistry 5 Cubuco St., Phase II-B Babayang Pag-asa, Molino Bacoor, Cavite	
5		Philippines フィリピン	Mr. Juan V. Mendegorin, Jr. メンデゴリン	Mar. 2, '58 (31)	Senior Trade & Industry Development Specialist, Rizal Provincial Office, Dept. of Trade & Industry 貿易工業省 リザル事務所 貿易工業発展上級専門官	Mapua Institute of Technology, Technology, B.S. Management & Industrial Engineering マプア技術学院 経営工業技術科	Esquerra Ctd. Mayamat Antipolo, Rizal
6		Thailand タイ	Ms. Ngermchit Thawalyavichachit ナムチャット	Oct. 5, '49 (40)	Scientist, Textile Industry Div., Ministry of Industry 工業省 繊維工業課 検査	Chulalongkorn Univ., Analytical Chemistry, National Univ. チラロンコーン大学 分析化学科	116/335 Patanakarn Rd. Moo-14 Subolungs Phrakhanong, Bangkok 10250

繊維製品検査技術コース 国別・年度別研修員受入実績表

※ 個別研修員は含まない。

国名	昭和63年度	平成元年度	計
中国	1	1	2
韓国	1		1
インドネシア	1	1	2
フィリピン	1	1	2
タイ	1	1	2
パラグアイ	1	1	2
サウジアラビア	1		1
合計	7	5	12
(個別参加)			
フィリピン	1	1	2
総計	8	6	14

# 原子力発電 Nuclear Power Generation

1. 研修期間  
1990年1月15日～1990年3月23日（68日間）
2. 定員及び割当国  
定員：5名  
割当国：7ヶ国
3. コースの目的  
本コースは、参加者に我が国原子力産業界が蓄積してきた原子力発電所の設計建設、各種設備及び安全対策に係わる技術について紹介し、参加国の今後の原子力産業の発展に供する。  
また、参加者に参加国原子力発電業界と我が国業界間の将来に於ける技術移転をはじめとする交流推進役としての活躍を期待する。
4. 到達目標  
本コースは、日本の原子力発電産業の例を中心に原子力発電の基本的技術一般について参加者に理解させることにある。
5. 研修項目及び研修日数

コード：No. A0419  
設立年度：昭和60年度

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講義	1. 日本の電気事業の概要 2. 日本の原子力の概要 3. 電力需給と電源開発 4. 原子力発電の安全規制 5. 原子力発電の安全性とその組織 6. 原子力産業と燃料サイクル 7. 原子力発電開発の歴史 8. (特別講義) 原子力発電の要員養成 9. 原子力発電の経済性 10. (特別講義) 原子力発電に係わる諸問題 11. 原子力発電プラント (BWR編) ①原子炉及び炉心一次冷却系統、②原子炉補助系統、③タービン設備、④放射性廃棄物処理施設⑤原子炉計装と制御系統 12. 原子力発電における放射線管理について 13. (特別講義) 軽水炉燃料のふるまい 14. 原子力発電プラント (PWR編) ①原子炉および炉心一次冷却系統 ②放射性廃棄物処理施設 ③原子炉計装と制御系統 ④運転・保守 ⑤炉心性能管理 15. (特別講義) 中小型原子炉について 16. 原子力発電プラント (BWR編) ①運転・保守②炉心性能管理 17. 原子炉の安全性 ①原子力発電所の安全設計 ②想定事故と工学安全施設 18. (特別講義) 軽水炉の水質管理 19. 原子力発電プラントの事故について 20. (特別講義) 高速増殖炉について 21. 原子力発電所の立地と耐震設計 22. 原子力発電所の計画と建設工事 (原子力発電所の品質保証を含む) 23. 原子燃料サイクルと再処理 24. 放射性廃棄物の処理・処分 25. 特別講話 (2話)	17.5
実習	日本原子力発電 (株) 総合研修センター、(株) ビー・ダブリュー・アール運転訓練センター	1.5
研修旅行	アロカ (株)、鹿島建設技術研究所、関西電力、(株) 大飯発電所、大飯原子力発電所建設事務所、原子燃料工業 (株) 東海製造所、原子力工学試験センター多度津工学試験所、中央給電連絡指令所、中部電力 (株) 浜岡原子力発電所、電力中央研究所原子力情報センター、東京電力 (株) 電力館、福島第一原子力発電所、動力炉・核燃料開発事業団大洗工学センター、高速増殖炉もんじゅ建設所、新型転換炉ふげん発電所 (ATR) 東海事業所、日揮 (株) 原子力技術開発センター、日本原子力研究所東海研究所那珂研究所、日本原子力発電 (株) 敦賀発電所、敦賀発電所2号機、東海第二発電所 (東海発電所) (株) 日立製作所日立工場エネルギー研究所、富士電機 (株) 川崎工場、三菱原子燃料 (株) 東海製作所、三菱重工 (株) 神戸造船所	22.5
カントリーレポート		1
グループ研究		
その他	フリーフィンギング、オリエンテーション、健康診断、評価会、閉講式等	25.5

6. 研修実施協力体制

- (1) 関係省庁：通商産業省
- (2) 研修委託機関：社団法人海外電力調査会電力国際協力センター
- (3) 研修実施協力機関：日本原子力発電（株）総合研修センター

7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
5	7	11	7	7	4	24	8

割当国及び受入人数〔（ ）内〕

大韓民国（1）、中国（1）、インドネシア（1）、スリ・ランカ（1）、タイ（1）、マレーシア（1）、メキシコ（1）

8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

(1) 所見

- イ. 研修先の受入体制は万全であり、毎年研修員の評価をもとに改善が重ねられ、非常に良くプログラミングされていた。特に講義と見学のバランスが良くとれており、双方がうまくリンクされていた。（講義の後に関連施設見学が行われた）
- ロ. 総合研修センターの担当講師がコースリーダー的な役割を果たしており、研修員のニーズに対応すべく熱心に取り組んだ。
- ハ. 研修先の施設は充実しており、技術面、生活面の両面から見て、研修員は快適な環境のもとで研修を受けることができた。

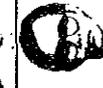
(2) 問題点及び改善点

- イ. 見学時のスケジュールがハードであるため、少しゆとりをもたせる。
- ロ. 「炉心管理」「建設」に関する科目の充実化を計る。
- ハ. カントリーレポートの発表要領をGIに詳細に明記し、テーマを選択方式にする。
- ニ. 基礎概要に関する副読本の作成をする。

LIST OF PARTICIPANTS IN "NUCLEAR POWER GENERATION COURSE, 1990"

(平成元年年度 原子力発電コース研修員リスト)

As of January 13, 1990

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
1		China 中国	Mr. Changming Xu シューメイ	May 10, '62 (27)	Engineer Regulations Division of NNSA  國家原子力安全管理局	Institute of Atomic Energy of China (M/S Nuclear Engineering: '84 - '87)	12 Beihuanxilu, Beijing
2		Indonesia インドネシア	Mr. Irawan Rahardjo イラワン	Dec. 12, '59 (30)	Official Agency for the Assessment and Application of Technology  技術評価局	10 Negerpati Institute of Technology (B/S Mechanical Engineering: '80 - '86)	Jl. Senopati 59 Kebayoran Baru, Jakarta Selatan Indonesia
3		Korea 韓国	Mr. Heon Kim キムヘン	Feb. 17, '54 (35)	Senior Researcher Korea Atomic Energy Research Institute  韓国原子力研究所放射線性実験物事課調整部	Ulsan University (B/S Chemical Engineering: '72 - '79)	Samsung Apt. 1-1205 Oryudoq, Jung-Gu, Daejeon, Korea
4		Malaysia マレーシア	Mr. Zulkifli Bin Jaafar Sidek ズル(キフリ)	Jan. 25, '62 (28)	Shift Charge Engineer (PERA Power Station) Lembaga Elektrik Negara  國家電力庁 PERA 発電所	Liverpool University, England (B/S Electrical Engineering)	368-J, Jalan Gelugor, 11700 Pulau Pinang, Malaysia
5		Mexico メキシコ	Mr. Juan De Jesus Herrera Gomez ホテン	Jan. 27, '64 (25)	Imports Expediting Coordinator Federal Commission of Electricity Nuclear Power Plant "Laguna Verde"  メキシコ連邦電気局	Centro de Bachillerato Industrial y de Servicios Tecnologicos Enterprises Administration	Calle 3 No.310, Colonia Revolucion Veracruz, Mexico
6		Sri Lanka スリランカ	Mr. T. M. R. Tennakoon テナクーン	Mar. 9, '62 (27)	Scientific Officer Atomic Energy Authority  原子力庁	University of Colombo (B/S Special Physics: '81 - '86)	Kiripaldeniya Road, Maddegama, Kirindiviella, Sri Lanka
7		Thailand タイ	Mr. Thawee Sirt- Udomrat タウエイ	Mar. 31, '53 (36)	Engineer Level 5 Electricity Generating Authority of Thailand  タイ電力庁	Chulalongkorn University (M/S Nuclear Engineering: '76 - '81)	101/61 No.3 Jangwatthana Rd, Pakzed, Nonthaburi 11120, Thailand

原子力発電コース 国別・年度別研修員受入実績表

国名 \ 年度	60	61	62	63	元	計
韓 国	1	1	1	1	1	5
中 国	1	1	1		1	4
インドネシア	1	1	1	1	1	5
スリ・ランカ			1	1	1	3
タ イ	2	2	1	2	1	8
フィリピン	1					1
マレーシア		1			1	2
メキシコ			1	1	1	3
計	6	6	6	6	7	31

自動車技術行政  
Automobile Engineering Administration

1. 研修期間 コード : No. A0323  
 1990年1月18日～1990年2月28日 (42日間) 設立年度 : 昭和58年度

2. 定員及び割当国  
 定員 : 6名  
 割当国 : 9ヶ国

3. コースの目的

途上国においては、モータリゼーションと交通安全施策とのアンバランスが原因で自動車に係る種々の問題が表面化してきており、これらの問題を解決し、モータリゼーションの健全な発達を促進するためには自動車の安全、公害等に対する体制の整備を整える必要が生じている。

このような背景から我国の自動車技術に係る行政システムについて紹介し、又相互に議論を交わすことは途上国のモータリゼーションの健全な発展に寄与するものと考えられる。以上の観点から、本コースは我国の技術協力計画の一環として日本政府によって、昭和58年度に特設コースとして開設され、昭和61年度より集団研修コースとなった。

4. 到達目標

途上国の自動車行政に携わる人材が日本の自動車技術に係る行政システムの特徴を理解し、それぞれ自国の実態と比較しながら、相違点を認識し、自動車技術行政の基本的な考え方を検討して、それぞれの国の実態に最も相応しい行政システムのあり方を見出すこと。

5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講義	①日本の自動車技術行政の体系 ②自動車の安全及び公害に関する研究 ③自動車規格、自動車生産 ④ロードサービス、運転者適正診断等	12
実習		
研修旅行 視察	運輸省東京陸運支局、トヨペットサービスセンター、日本自動車整備専門学校、 日野自動車工業、堀場製作所、トヨタ自動車、警視庁交通管制センター等	7
カントリーレポート		1
グループ研究		
その他	ブリーフィング、オリエンテーション、評価会、閉講式等	22

## 6. 研修実施協力体制

(1) 関係省庁：運輸省

(2) 研修委託機関：(財)自動車検査登録協力会

## 7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
6	9	15	9	6	6	54	21

割当国及び受入人数〔( )内〕

インドネシア (2)、マレーシア (2)、フィリピン (1)、タイ (2)、ブルネイ (0)、サウジアラビア (1)、ブルンディ (1)、ソマリア (0)、グレナダ (0)

## 8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

### (1) 所見

#### イ. プログラム

本セミナーは、車輛検査、自動車登録制度を中心に日本の自動車行政の全体像を紹介することを目的としたものであるが、講義と見学がほぼ半々の割合いで組み立てられており、研修員は日本の自動車行政の基本的なことについて理解することができた。

#### ロ. 研修員寸評

研修員の自国での職掌の違いにより、科目に対する熱意が異なったこともあり、積極的に質問をして研修員自ら、研修を盛り上げるという光景はあまりなかった。

#### ハ. 受入先等の対応

自検協、運輸省訪問先相互の連絡がよく、事前の打合せも十分行われており、研修はソツなく実施された。

### (2) 問題点及び改善点

イ. 研修員の質問に対して、講師の回答が曖昧であったと研修員が指摘しているので、私見の形で良いから、講師は自説を述べ、よりよく研修員に理解してもらうようにした方がよい。

ロ. 訪問先（見学先）で、一部配布資料が日本語だったので、事前に入手し、翻訳して手渡すようにする。

ハ. 英語による講義率が6%と低いので、なるべく英語の出来る講師を多くする。

LIST OF PARTICIPANTS IN "AUTOMOBILE ENGINEERING ADMINISTRATION, 1989"

(1989年度 自動車技術行政研修員リスト)

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
1		Burunei ブルネイ	Mr. Gahungu Cassien ガフング	May 22, '52 (37)	Manager of Buses Work Shop, Orreco (Office des Transports et Comm.) 運輸運輸公社 修理工場長	Institute Polytechnique (1975年)	B.P. 1486, Djamboune, Sarawak, C/O OFFICE.
2		Indonesia インドネシア	Mr. Muhammad Hendrawan ヘンドラワン	Nov. 9, '53 (36)	Head, Cargo Transport Safety Sec., Ministry of Communication 運輸運輸省 貨物輸送安全課長	University of Aot Sumatera (1984年)	Kebon Melati Rt. 002/RM. DUB Jakarta Pusat, Indonesia.
3		Indonesia インドネシア	Mr. Saroso サロソ	Mar. 23, '54 (35)	Chief of Installation for Workshop and Public Vehicle Parking at the Land Transport and Road Traffic College 運輸運輸省 陸運交通大学校 自動車整備施設部長	Road Transport and Traffic College (1984年)	Jl. Bedak V No.1 Perumas Indonesia
4		Malaysia マレーシア	Mr. Talib Bin Ria Jaafar タリフ	Apr. 15, '35 (54)	Research Officer, SIRIM 国家標準局 主任研究員	Technical Institution (1973年)	8, Jalan 18/158 40000 Shah Alam Malaysia.
5		Malaysia マレーシア	Ms. Rokiah Bt Solim ロキア	Aug. 21, '57 (32)	Mechanical Engineer Roue, Director, Jenters, Federal Workshop, Public Works Dept. 州長省 公共事業局 機械主任技師	Sunderland Polytechnic United Kingdom (1989年)	417 Jalan Selamat 20, Tasek Selat, Batu Caves 68100, Selangor D.E. Malaysia
6		Philippines フィリピン	Mr. Raul Feliciano フェリシアーノ	Jul. 21, '42 (47)	Head, Mechanical Engineer, Bureau of Equipment Dept. of Public Works and Highway 公共事業 - 道路省 施設局 検査課長	Feati University (1967年)	7312 San Nicolas St. La Huerta, Zamboque Metro Manila, Philippines
7		Saudi Arabia サウジアラビア	Mr. Khalid Fahad Alshumber アルシムバー	1955 (35)	Director, Institute of Automobile Training Center, Public Security Force 国家警備局 自動車 機械訓練所長	California State University (1983年)	Box 55463, Riyadh 11544 Saudi Arabia
8		Thailand タイ	Mr. Danai Mansap ダナイ	Mar. 14, '45 (44)	Head, Mechanical Power Technology Division, Rajabhat Institute of Technology Ministry of Education 文部省 技術教育司 機械工学部長	Professional Education Mechanical Engineering (1968年)	128/61 Huaykeo Rd. Chiangmai, 50000, Thailand
9		Thailand タイ	Mr. Survith Voravisu Thikul スービット	Nov. 12, '41 (48)	Director, Transport Engineering Division 運輸運輸省 施設局 技術課長	Chulalongkorn University (1963年)	2 Soi 9 Suan Luanglong Village Peramban Road Bangkok, Bangkok 10250, Thailand.

自動車技術行政コース 国別・年度別研修員受入実績表

年度 国名	S.58	S.59	S.60	S.61	S.62	S.63	H. 1	計
【アジア地域】	(6)	(6)	(7)	(6)	(5)	(4)	(7)	(41)
バングラデシュ	1							1
ブルネイ			1					1
中国			1					1
香港	1	1						2
インドネシア	1	1	1	1	1	1	2	8
マレーシア			1	2	1	1	2	7
ネパール	1							1
フィリピン	1	2	1	2	1	1	1	9
シンガポール	1	1	1		1			4
タイ		1	1	1	1	1	2	7
【中近東地域】	(1)			(1)	(1)	(1)	(1)	(5)
サウディ・アラビア	1			1	1	1	1	5
【アフリカ地域】				(1)	(2)	(4)	(1)	(8)
ブルンディ					1	2	1	4
シエラレオネ				1				1
スーダン					1			1
エチオピア						1		1
ソマリア						1		1
【中南米地域】	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(1)		(7)
ブラジル					1			1
ジャマイカ					1			1
パナマ	1	1	1	1				4
グレナダ						1		1
【大洋州】	(1)	(1)						(2)
フィジー	1	1						2
合計	9	8	8	9	10	10	9	63

原子力基礎実験  
Nuclear Technology

1. 研修期間 コード: No. A0303  
 1990年1月18日～1990年3月18日 (60日間) 設立年度: 昭和60年度

2. 定員及び割当国  
 定員: 8名  
 割当国: 10ヶ国

3. コースの目的  
 開発途上国におけるラジオアイソトープ (RI) 利用、原子炉利用等の原子力関連分野に従事する研究者・技術者等を対象として、講義及び実習により、原子力に関する基礎的知識・安全取扱い方法及び利用のための基礎技術を修得させ、もって、開発途上国の原子力開発の発展に寄与するものである。

4. 到達目標
- (1) RI・放射線の利用の基本的、理論的概念を理解する。
  - (2) 原子炉の基本的、理論的概念を理解する。
  - (3) 放射線防護の重要性及び基本的、理論的概念を理解する。

5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講義	原子力の基礎 放射線の防護 ラジオアイソトープ・放射線の利用 原子炉工学	12
実習	放射線基礎実験 放射線防護技術実習 ラジオアイソトープ・放射線の実験 原子炉実習	17
研修旅行 視察	関西電力美浜PRセンター、広島大学附属研究所、 京都大学放射性同位元素総合センター	7
カントリーレポート		1
グループ研究	上記講義・実習の中で、Aグループ (RI・放射線利用)、Bグループ (原子炉工学) 分け	(27)
その他	ブリーフィング、オリエンテーション、評価会、閉講式等	23

## 6. 研修実施協力体制

- (1) 関係省庁：科学技術庁
- (2) 研修委託機関：日本原子力研究所

## 7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
8	10	11	9	8	4	41	12

割当国及び受入人数〔（ ）内〕

中国 (1)、大韓民国 (0)、インドネシア (0)、フィリピン (1)、マレーシア (1)、スリランカ (1)、バングラデシュ (1)、タイ (1)、トルコ (2)、メキシコ (1)

## 8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

(1) RI放射線利用と原子炉工学の2グループに分かれたプログラムは、人数にアンバランスが生じており、原子力の基礎的知識、理論の習得を目的としている本コースの原点にもどり、グループ分けについては検討を要する。

### (2) 個別研修プログラム

研修員の関心が高い分野での個別研修の希望が強いため次回はカリキュラムを再編成し、1週間程度の個別研修プログラムを設ける。希望プログラムについては、GIのクエスチョネアで対応し、研修員の来日前に受入体制を整える。

### (3) 研修期間

平成3年度は、個別研修プログラムのために、全体研修期間を1週間延長することとしたい。

LIST OF PARTICIPANTS in "Nuclear Technology Course, 1989"  
(平成元年年度 原子力基礎奨励コース研修員リスト)

As of January 18, 1990

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
1		Bangladesh バングラデシュ	Mr. Imtiaz Kamal イムチア・カマル	(29)	Assistant Engineer, Technology of Nuclear Science and Technology, Atomic Energy Commission Bangladesh Atomic Energy Commission	M.Sc. Engineering (Mechanical) Bangladesh University of Engineering and Technology Dhaka-1205	C/o Prof. M. Aher Aziz, Department of Mechanical Engineering, Camus Dhanabadi, Dhaka-1205
2		China 中国	Mr. Zhu, Li-Ming 朱黎明	(27)	Assistant Engineer, Shaoghai Institute of Metrological Technology (SIIT), Ionisation Radiation Division	Fudan University, Radio Chemistry	55, Long 674, Tang Shan Road
3		Malaysia マレーシア	Mr. Abdul Khalim Bin Abdul Rashid カリム	(34)	Prime Minister's Department, Science and Technology, Research Officer (Engineering)	University of Maryland, M.S. Structural Engineering	Lot 1177, Taman Mera Jaya, Seksyen 13, 43000 Kajang Selangor, West Malaysia
4		Mexico メキシコ	Mr. Abel Noe Guevara Mesa アベル	(36)	Mechanical Engineer Supervisor, Comision Federal de Electricidad	Universidad Veracruzana, Fac. de Ingenieria, Mechanical Engineer	Chopo #1085 Fracc. Floresta Veracruz, Veracruz, Mex. 91940
5		Philippines フィリピン	Mr. Roel Almaraz Loterfis ロッチャリ・ローマ	(28)	Science Research Specialist I, Philippine Nuclear Research Institute	University of the Philippines Environmental Biology	49-A Boston St., Dag. Bumacal, Catepunan, Cebu, Oceon City
6		Sri Lanka スリ・ランカ	Ms. Anoma Kumari Ratnayake アノマ	(29)	Technical Assistant, Atomic Energy Authority	Open University of Sri Lanka, Chemistry, Botany, Zoology	58, Sri Devananda Road, Piliyamdala
7		Thailand タイ	Mr. Khatsapai Thipyapong カヂャパイ	(35)	Office of Atomic Energy for Peace, Responsible for Isotope Production, 2-131 Kaset Niphan & Rajaphammenthal Kit 2	Sri Mahatma Jit University, B.Sc. Chemistry	41 Phahonyothin 26 Bangkok, Bangkok 10900
8		Turkey トルコ	Mr. Mehmet Atif Cetiner メフメト・アチフ	32	Researcher in Health Physics Department Ankara Nuclear Research and Training Center, Turkish Atomic Energy Authority	University of Gazik, Ph.D. Student Faculty of Science	Ataturk Sitesi (Oran Meydan) 24 Block No.5 Cankaya/Ankara
9		Turkey トルコ	Ms. Ülkü Ari ウルク・アリ	30	Researcher in Chemistry Department, Ankara Nuclear Research and Training Center, Turkish Atomic Energy Authority	Middle East Tech. Univ., B.Sc. and M.Sc. in Analytical Chemistry	Zaferançe, Y. Cad. No.2/6 Seyrantepe/Ankara 06670 Ankara

原子力基礎実験コース 国別・年度別研修員受入実績表

国名 \ 年度	60	61	62	63	平成 元年	合 計
【 ア ジ ア 】						
バングラデシュ		2	1	1	1	5
中 国	1		1	1	1	4
インドネシア	2	1	2	1		6
韓 国	1	1		1		3
マレーシア		2	1	1	1	5
パキスタン		1	1			2
フィリピン	1			1	1	3
スリランカ	1	1	1	1	1	5
タ イ	2	2	1	1	1	7
【 中 近 東 】						
トルコ	1			1	2	4
【 中 南 米 】						
メキシコ	1		2	1	1	5
コロンビア		1				1
合 計	10	11	10	10	9	50

貿易振興セミナー（Ⅱ）  
Trade Promotion Seminar（Ⅱ）

1. 研修期間 コード：No. A0369  
 1990年1月22日～1990年3月18日（56日間） 設立年度：平成元年度

2. 定員及び割当国  
 定員：10名  
 割当国：12ヶ国

3. コースの目的  
 本セミナーは、「貿易の発展を促進することが、一国の経済発展につながることになる」という考え方にに基づき、我が国の開発途上国への技術協力の一環として、当該国の貿易発展をはかり、また我が国との友好関係促進に寄与すべく実施するものである。  
 従って本セミナーでは、開発途上国政府の貿易担当中堅幹部を対象として、貿易振興のための諸政策を中心とする講義、討論および見学等を実施し、これを通じて参加各国の貿易振興に貢献することを目的としている。

4. 到達目標  
 本セミナーは世界経済の中で強力な存在へと発展をとげ、あらゆる意味で開発途上国にとってのモデルとなっている我が国を総括的、局面的、時系列的に理解せしめ、経験を開陳すると同時に参加各国の抱える貿易、経済の問題を明確にし、その解決策を共に考えることが目標である。

5. 研修項目及び研修日数  
 6. 研修実施協力体制

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講義	1) 日本の経済・貿易 2) 中小企業 3) 世界経済と貿易振興機関 4) 貿易振興政策（多局面） 5) 地方産業・伝統産業と貿易振興 6) 対日輸出	12
実習	マーケットリサーチ（自主活動） 研修員の自主性に基づき市場調査実習を行う。講師によるオリエンテーションを踏まえ、各研修員が特定の輸出希望商品について実地にて市場調査を行う。この自主活動を通じ、研修員の市場分析を含めたマーケティング戦略に対する実際的な認識を高めていく。 論文 研修員は研修期間中、自主的に準備したデータ及び研修成果を基に「貿易振興政策に関する意見」と題した論文を作成する。	4
研修旅行	東京中央卸売市場、本田技研工業狭山工場、井関農機馬木工場、帝人松山工場、大王製紙伊予三島工場、百十四銀行本店、三越本店、明治製菓関東工場、東京港、松下電池工業、久保田鉄工滋賀工場、幕張メッセ	14
カントリーレポート		3
グループ研究	ディスカッション	1
その他	ブリーフィング、オリエンテーション、評価会、閉講式等	22

(1) 関係省庁：通商産業省

(2) 研修委託機関：社団法人世界貿易センター

7. 受入実績

8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
10	12	16	11	11	1	11	11

割当国及び受入人数〔（ ）内〕

エジプト (1)、ガーナ (1)、象牙海岸 (1)、ケニア (1)、モーリシャス (1)、タンザニア (1)、ザンビア (1)、セント・ルシア (1)、トリニダード・トバコ (1)、ユーゴスラビア (1)、マルタ (1)、セント・ビンセント

(1) 所見

- イ. 委託先の受入体制は万全であり、非常に熱心であった。
- ロ. 講師陣、講義内容とも優れており、とても良くまとまったプログラムであった。
- ハ. マーケットリサーチの時期が各企業の年度末繁忙期と重なったため、アポイント取り付け等時間をかけて調査することが難しかった。

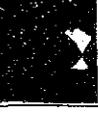
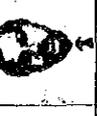
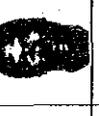
(2) 問題点及び改善点

- イ. 本セミナーはアフリカ及びカリブ海諸国を対象としたグルーピングを行っているが今年度はヨーロッパ諸国からの受入れもあったため、研修員間にレベルの差が生じた。研修員の文化的背景やニーズの隔たりを小さくするべく国の割当を慎重に検討する必要がある。
- ロ. 税関見学を追加する。

LIST OF PARTICIPANTS IN "TRADE PROMOTION SEMINAR II, 1990"

(平成元年度 貿易振興セミナー研修員リスト)

No. 1

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
1		Côte d'Ivoire	Mr. Leonard Trazie Yoli-Ei ボリビ	Apr. 1, '55 (34)	Assistant Director of External Commerce Ministry of Commerce (Ministère du Commerce)	Université de Brene W. Germany ('82 - '85) Dipl. D. Approfondies (Sciences Économique)	01 BP5591 Aboadjon 01 Rep. Côte d'Ivoire
2		Egypt	Mr. Nowafak Hassan El Fayoumie モアファック	Dec. 26, '48 (40)	商務省 海外通商局 局長補佐 Chief of Department, Foreign Trade Management, Ministry of Economy and Foreign Trade (Foreign Trade Sector)	Faculty of Foreign Trade, Bachelor of Commerce (V.G.) in Foreign Trade	6 Hussein Moustafa St. Cairo - Egypt
3		Ghana	Mr. Lawson Berlando Gidigasu ギディガソ	Jun. 6, '48 (41)	経済外務貿易省 (海外貿易部) 部長 Senior Commercial Officer Ministry of Trade & Tourism	Bachelor of Arts Economics (E.A.) Honours ('72 - '75) Post-Grad. Cert. "Trade Development" - 1981	Ministry of Trade P.O. Box M.47 Accra
4		Kenya	Ms. Rachel Wanjala Klieta レイチェル	Mar. 1, '54 (35)	貿易観光省 上級商務担当官 Assistant Secretary (Assigned to Department of Road) Ministry of Commerce - Authorising Authority & Release of Importation of Motor Vehicles 商務省 次官補佐 (自動車輸入管理担当)	University of Birmingham (1966 - '67) Post Graduate Diploma in Project Analysis and Implemen- tation (Development Administration Course)	Box 30430 Nairobi Kenya
5		Malta	Mr. Louis Olivieri ルイ	Jun. 17, '63 (26)	Executive Malta Export Trade Corporation マルタ輸出貿易公社 理事	University of Malta ('83 - '86) B.A. (Hons) Business Management in Market- ing	'Voce' Tortisferata St. Msida, Malta
6		Mauritius	Mr. Preetam Radha プリータム	Nov. 19, '55 (34)	Trade Officer, Foreign Trade Division, Ministry of Trade and Shipping 貿易輸送省 外貿貿易課 貿易担当官	University of Delhi, India (1978 - '82) B.A. (Hons.) Economics.	2, Solferino St. Vacoas, Mauritius.
7		Saint Lucia	Mr. David Jordan デイビッド	Aug. 21, '57 (32)	Trade Officer II Ministry of Trade, Industry & Tourism 貿易輸送省 外貿貿易課 貿易担当官	University of the West Indies Trinidad B.Sc. Economics Dip Spanish Univ. of Havana	P.O. Box 1270 Castries St. St. Lucia W.I.
8		Tanzania	Ms. Janet Ehabu Mirja ジャネット	Mar. 4, '57 (32)	貿易産業観光省 貿易担当官 Trade Officer Ministry of Industries and Trade 貿易産業省 貿易担当官	University of Dar-MS-Salem (1979 - '82) Marketing	Ministry of Industries & Trade P.O. Box 9503 Dar-MS-Salem Tanzania

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
9		Trinidad and Tobago トリニダッド・トバゴ	Mr. Michael Glenn- Art Lashley マイケル	Dec. 21, '50 (39)	Foreign Service Officer II Ministry of External Affairs and International Trade 外務通商省 海外サービス担当官	Institute of International Relations, University of the West Indies ('73 - '75) International Relations and Development Studies DEP/INT. RELS	Queens Park West, Knovley, Port of Spain, Trinidad and Tobago West Indies
10		Yugoslavia ユーゴスラビア	Mr. Djordje M. Lajsic ジョージ	Apr. 16, '48 (41)	Vice President Director, International Course Industrial Economics Institute 産業経済研究所 国際部 部長	Faculty of Economics ('71 - '73) M.Sc. Modelling of Development Yugoslavia	Gandjeva, 156/33 11070 Novi Beograd Yugoslavia
11		Zambia ザンビア	Ms. Bridget Chilala ブリジッド	Feb. 8, '61 (28)	Market Research Officer Export Board of Zambia ザンビア輸出委員会 マーケティング調査官	University of Zambia ('79 - '83) in Economics/Business Administration	Hotlands Extension P.O. Bulwer Road Lusaka No. 7886/4 Zambia

貿易振興セミナー（II）コース 国別・年度別研修員受入実績表

国名	年度	平成元年度
エジプト		1
タンザニア		1
ケニア		1
ガーナ		1
象牙海岸		1
ユーゴスラヴィア		1
トリニダードトバゴ		1
セントビンセント		
セントルシア		1
ザンビア		1
モーリシャス		1
マルタ		1
計		11

航空保安セミナー  
Aviation Security Seminar

1. 研修期間 コード: No. A0318  
 1990年1月28日～1990年2月21日 (25日間) 設立年度: 昭和61年度

2. 定員及び割当国  
 定員: 14名  
 割当国: 16ヶ国

3. コースの目的

開発途上国の保安対策担当者が、自国の空港における航空保安対策に役立てるため、ICAOの関連規定等航空保安対策に関する国際的基礎知識を取得すると共に、我が国の航空行政全般の理解、特に航空保安対策に関する規定・制度並びに機器、施設について理解するほか、実地に空港等の施設について見聞を広め、それぞれの国に適する形に消化し、航空保安対策のあり方を追求することを目的とする。

4. 到達目標

- (1) 空港の警務消防体制について理解を深める。
- (2) 国際的なハイジャック等防止体制及び防止対策に関する知識を習得する。
- (3) 日本のハイジャック等防止体制及び防止対策に関する知識を習得する。
- (4) ハイジャック防止検査体制に関する知識を習得する。
- (5) 各国におけるハイジャック等の防止体制及び対策に関する問題点を検討し、それぞれの国における保安対策のあり方をさぐる。

5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講義	空港の警務、国際的なハイジャック等防止体制及び防止対策、日本のハイジャック等防止体制及び防止対策、ハイジャック等防止検査体制	7
実習		
研修旅行 視察	成田空港、福岡空港、大阪空港	4
カントリーレポート		1.5
グループ研究		
その他	ブリーフィング、オリエンテーション、評価会、閉講式等	12.5

## 6. 研修実施協力体制

(1) 関係省庁：運輸省

(2) 研修委託機関：(社) 海外運輸コンサルタンツ

## 7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
14	16	18	12	12	3	22	12

割当国及び受入人数〔( )内〕

ミャンマー (0)、フィリピン (1)、パキスタン (1)、シンガポール (0)、タイ (1)、インド (1)、  
インドネシア (1)、マレーシア (1)、エジプト (0)、クウェイト (0)、トルコ (1)、イエメン (1)、  
ギリシャ (1)、チュニジア (1)、メキシコ (1)、フィジー (1)

## 8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

(1) 次回は研修の始めに、日本の航空事情、保安関係の組織体系等基礎的背景の説明を十分に行うこととする。

(2) 研修項目

研修員の要望が強かった ①爆発物対策 ②ハイジャック時の警察の対応  
③テロ対策 以上3項目を次回追加する。

(3) 見学

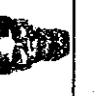
今回は研修旅行中福岡、大阪の2空港を見学したが、次回は1箇所として、見学時間を充分とる。また羽田空港の見学を追加する。

(4) 研修期間

上記の研修項目を検討すると、研修期間が短かすぎる。平成3年度は、1週間期間を延長することとしたい。

LIST OF PARTICIPANTS IN "AVIATION SECURITY SEMINAR, 1990"  
(平成2年度 航空保安セミナー研修員リスト)

As of January 28, 1990 No. 1

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
1		Fiji フィジー	Mr. Howard J. Pohitini ポリチニ	Jul. 16, '52 (37)	Chief Security Officer, Civil Aviation Authority of Fiji	New Zealand Army Officer (School)	134 London Avenue, Nadi Airport, Fiji
2		Greece ギリシャ	Mr. Dimitris Stavrianos スタヴリアノス	Oct. 26, '48 (41)	フィジー航空公園 主任保安担当官 Chief of Rodos Airport Operation Div., Civil Aviation Authority, Greece	University of Athens (Economics & Political)	No. 3, Side Street of 9th May Street, Ialisos, Rhodos, Greece
3		India インド	Mr. P. Kalyanasundaram カリヤナスンダラム	Dec. 25, '54 (35)	ギリシア民権局 ロードス空港 保安企画官 Section Officer, (Aviation Security, Safety & Vigilance) Ministry of Civil Aviation	Annaalai University (Mechanics)	108, Minro Road Hostel, Minto Road, New Delhi, India
4		Indonesia インドネシア	Mr. Made Adi Soetjipra ソエトジプア	Jun. 21, '44 (45)	航空保安担当官 Assistant Director on International Relations, Directorate General of Air Communication	アナンマライ大学 (地質・土壌工学、修士) Airlangga University (Criminal Law)	Jalan Mometer A/6 Komplek Miza Angkasa, Kemayoran Jakarta Pusat, 10720 Indonesia
5		Malaysia マレーシア	Mr. Sunif @ Musti Bin Naiman ナイマン	Sep. 17, '63 (26)	航空運輸総局 国際関係主任 Security Officer, Director General of Civil Aviation of Malaysia	アイルランガン大学 (初級) National University of Malaysia (Economics)	30, Jln. SS 18/3B Subang Jaya, 47500 Petaling Jaya, Selangor Darul Ehsan, Malaysia
6		Mexico メキシコ	Mr. Armando Subirats Simon シュベラツ	Feb. 14, '59 (34)	マレーシア民航総局 保安担当官 Director of Security, Mexico City International Airport, Airport & Auxiliary Services (Gov.)	マレーシア国立大学 (経済) Instituto Politecnico Nacional (Aeronautical)	Tecuilapan 54-212 C.P. 04100 Mexico, D.F.
7		Pakistan パキスタン	Mr. Tariq Javed Malik タリク	Sep. 10, '51 (38)	空港保安局 メキシコシティ国際空港 保安課長 Security Officer, Airport Security Force Islamabad Airport Pakistan	国立工科大学 (航空工学) Government College, Multan (Science)	ASF Camp, Murri Road, Sadiqabad, Rawalpindi, Pakistan
8		Philippines フィリピン	Mr. Roberto B. Galvez ガルヴェス	Feb. 16, '54 (35)	イスラマバード空港保安局 保安担当官 Special Police Rabat International Airport Authority	パキスタン国立大学 (理学) Phillippe College of Criminology	15255 Saint Francis Street, San Augustine Village, Parabagu, Betro Manila, Philippines

No.	Photo	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
9		Thailand タイ	Ms. Monrudee <u>Gettuphan</u> グットチャパン	Feb. 4, '57 (32)	Chief of Administrative Section, Airports Authority of Thailand タイ空港公団 管理課長	Chulalongkorn University (English Drama & French) チュロロンコン大学 (英文学、仏語)	2/090 Huanchong 1 Jangwattana Road, 10210 Thailand
10		Tunisia チュニジア	Mr. Ezzeddine <u>Elhouz</u> エルハース	Jan. 5, '47 (43)	Air Navigation Deputy Director in Civil Aviation Direction, Ministry of Transport 運輸省 地域航空課次長	Universite Toulouse (Dr. Eng. Electronics) トゥルーズ大学 (電子工学博士)	12 Cité de l'Air el Aouina 2046 Tunisia
11		Turkey トルコ	Mr. Gökhan Vehi <u>Kisioglu</u> キシオグル	Feb. 7, '46 (43)	Deputy Governor of Antalya and Civil Management Commander of Antalya Airport, Ministry of Interior Affairs 内務省 アンタリア空港 保安部長	University of Law (Civil Management) 法科大学 (法専)	Deniz Mah. 124. Sok. 20/7 Antalya, Turkey
12		Yemen イエメン	Mr. Abdulelah G. <u>Al-Garmouzi</u> アル・ガルモージー	1949 (40)	Director, Aviation Security, Civil Aviation & Meteorology Authority 航空保安庁 航空保安課長	CUTC Cairo (ATC) カイロ航空保安署 養成学校	c/o P.O. 1042 Civil Aviation Authority, Sana'a, Yemen Arab Republic

航空保安セミナーコース 国別・年度別研修員受入実績表

国名	年度				計
	1 61	2 62	3 63	4 元	
〈アジア地域〉	5	5	3	6	19
インドネシア	1			1	2
マレーシア	1			1	2
パキスタン		1		1	2
フィリピン		1	2	1	4
シンガポール		1			1
スリランカ	1	1			2
タイ	2	1	1	1	5
インド				1	1
〈中近東地域〉		2	4	4	10
バーレーン			1		1
エジプト		2	1		3
トルコ			2	1	3
チュニジア				1	1
クウェート				1	1
イエメン				1	1
〈中南米地域〉	1	1		1	3
ブラジル	1	1			2
メキシコ				1	1
〈アフリカ地域〉			1		1
コモロ			1		1
〈オセアニア地域〉				1	1
フィジー				1	1
〈欧州地域〉				1	1
ギリシャ				1	1
合計	6	8	8	13	35

住宅・住環境改善セミナー  
Improvement of Housing and Living Environments (Seminar)

1. 研修期間 コード: No. A0349  
 1990年2月1日～1990年3月4日 (32日間) 設立年度: 昭和62年度

2. 定員及び割当国  
 定員: 8名  
 割当国: 10ヶ国

3. コースの目的

本コースは、我が国技術協力計画の一環として日本政府により設けられたもので、開発途上国のスラムや不法居住者の改善に携わっている行政官等に対して、講義、見学、討議等を通じて、我が国の経験や事業進め方を紹介するとともに、研修員の情報交換を促すことにより、これからの開発途上国における住宅・住環境の改善方策について考える機会を与え、各研修員の資質の向上を図ることを目的とする。

4. 到達目標

研修員が、本研修を通じて帰国後自国で有効な住宅・住環境の改善方策について考える機会を与えるべく配慮する。即ち、開発途上国における問題の実情に即し、我が国のこれまでの経験や事業の進め方の中から有益な情報を伝えるとともに、研修員相互の討論の中から問題への解決策を探ることを到達目標とする。

5. 研修項目及び研修日数

主要項目	研修科目・研修場所等	日数
講義	日本の住宅政策を顧みて、日本の戦後住宅政策・住宅建設技術開発の歩み 農村の生活改善と居住環境改善 開発途上国における居住問題改善への試み	2.5
実習		
研修旅行 視察	浦安市 (日本の住宅・住環境事業の実情、各種住環境整備事業)、東京 (市街地再開発)、 横浜市 (住環境整備)、名古屋市 (区画整理)、大阪市 (公共住宅改善)	6.5
カントリーレポート		6.5
グループ研究		
その他	ブリーフィング、オリエンテーション、評価会、閉講式等	16.5

## 6. 研修実施協力体制

(1) 関係省庁：建設省

(2) 研修委託機関：(財)日本建築センター

## 7. 受入実績

今年度実績					昨年度までの実績		
定員	割当国	応募者数	受入人数	受入国数	実施回数	受入人数	受入国数
8	10	20	10	9	2	20	12

割当国及び受入人数〔( )内〕

バングラデッシュ (1)、インドネシア (1)、スリランカ (1)、タイ (1)、クウェイト (0)、ケニア (1)、ナイジェリア (1)、ブラジル (2)、メキシコ (1)、ペルー (1)

## 8. 今年度の評価（所見、問題点及び改善点）

### (1) 所見

建設省住宅局の立てたプランが秀れており、それに副って実施に当たった日本建築センターの対応も理想的であった。従ってコースは全体として大成功だった。

### (2) 問題点及び改善点

様々な改善意見は出されたが、これらは欲を言えばの話で現状のままで、充分というのが参加者の全体的感想だった。一応これら意見を列挙する。

(1) 講義科目として建築材料、建築技術、土建技術を入れる。

(2) カントリーレポートをコースの途中に入れる。

(3) 第三世界について知悉している人を入れディスカッションを行う。

(4) 討論会をリードして行く人を配置する。

(5) 課題を与え夜間や休日にも研修員が独自にその解決法を探すようなやり方を採用する。

LIST OF PARTICIPANTS IN "SEMINAR ON IMPROVEMENT OF HOUSING & LIVING ENVIRONMENTS, 1990"

(平成2年度 住宅・住環境改善セミナー研修員リスト)

No.	Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
1	Bangladesh	Mr. Abdul Qayyum カユム	40	Executive Engineer Public Works Dept. Division-2, Dhaka 土木省 上級技官	Rajshahi Engineering College Bachelor of Science in Civil Eng.	R/S, Noorjahan Road Mohammadpur, Dhaka 1207 Bangladesh
2	Brazil	Ms. Lucy Carmem マルシー	40	Management of Dept. of Housing and Mortgage Investment 州貯蓄銀行 住宅・低当投資課長	Civil Law Federal University of Santa Catarina	Rua Almirante Lamego, 73 AP901 88015 Florianopolis/SC, Brazil
3	Brazil	Ms. Monica Nogami モニカ	31	Coordinator of Projects Planning & Programming São Paulo Housing & Urban Development State Corporation サオ・パウロ住宅都市整備公団 事業調整官	Sociologist Housing Planning and Building Institute for Housing Studies, Rotterdam (IHS/PIJ)	Rua Bariloiz, No. 770 05467 São Paulo, S.P., Brazil
4	Indonesia	Ms. Roeminiwati ロスキニイ	40	Staff of Sub Directorate Info. & Regulation Directorate of Housing 住宅局 情報・法規部 スタッフ	Law	H. Pm. Baru III/14c (flat) Perumahan Jabarta Pusat, Indonesia
5	Kenya	Mr. Justus Amuko Amayo アマヤ	37	Assistant Director Housing Development Department Ministry of Lands & Housing Development 土地・住宅・都市省 住宅整備次長	Housing Economist Institute for Housing Studies University of Aston (UK)	P.O. Box 67521 Nairobi, Kenya
6	Mexico	Ms. Delgado Fuentes Maria De Gua Delupe グワグルーベ	29	Director of States Housing Programs Coordination. Ministry of Urban Development & Ecology 都市整備・社会開発省 州住宅計画・建設課長	Communication Universidad Iberoamericana	Av. Coyoteacan #710-01 Col del Valle C.P. 05100 Mexico D.F.
7	Nigeria	Mr. Kolawole E. Akinola コミコローラ	40	Manager (Project Development Dept.) Federal Mortgage Bank of Nigeria Lagos - Nigeria ナイジェリア連邦 低当銀行 課長 (リサーチ・プロジェクト担当)	Urban Economist Institute for Housing Studies, Rotterdam Nigeria	37 Alara Street Onike Yaba, Lagos Nigeria
8	Peru	Ms. Cevallos Lopez Maria Antonieta アントニエッタ	40	Planning Director General Building Bureau Ministry of Housing and Construction 住宅・建設省 企画課長	Sociologist Universidad Catolica del Peru	Las Garzas 160 Lima 34 Peru

No. 1

No.		Country	Name	Date of Birth (Age)	Present Post	Final Education	Home Address
9		Sri Lanka スリ・ランカ	Mr. <u>Don Senake</u> <u>Jayasinghe</u> ドン	44	Deputy General Manager Engineering Services National Housing Development Authority 住宅・整備公団 技術部 副部長	Civil Engineering University of Sri Lanka	No. 186, Dutugemunu Street Kohawela Sri Lanka
10		Thailand タイ	Mr. <u>Viji Chiasakul</u> ビチャ	39	Architect National Housing Authority 住宅・公団 建築技師	Architecture Chulalongkorn University	450 Ladprao Rd., Bangkok Bangkok 10500
11		Uganda ウガンダ	Mr. <u>Paul Egressa</u> <u>Sifuna</u> シフナ	33	Principal Architectural Assistant Ministry of Housing & Urban Development 住宅・都市整備省 第一建築補佐	Technical Studies Uganda Polytechnic Kyambogo	Mayembe Village C/O Busia Primary School P.O. Box 36 Busia Uganda

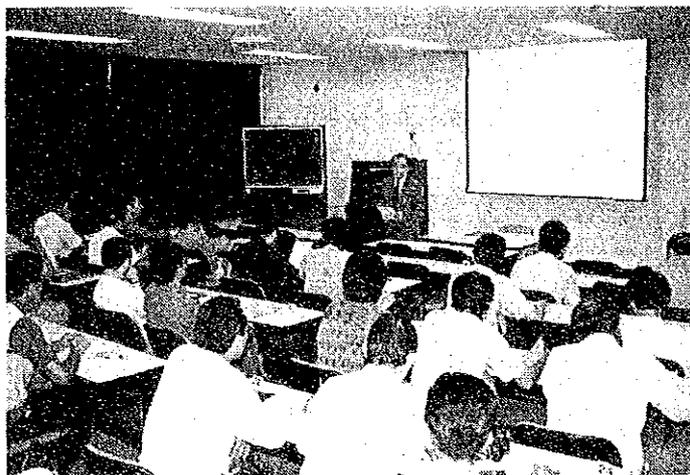
住宅・住環境改善セミナーコース 国別・年度別研修員受入実績表

年度 国名	昭和62年 第1回	昭和63年 第2回	平成元年 第3回	計
【アジア地域】				
バングラデシュ		1	1	2
インドネシア	1	1	1	3
スリランカ	1	1	1	3
タイ	1	1	1	3
フィリピン	1			1
【中近東地域】				
トルコ	1	1		2
バハレーン	1			1
【中南米地域】				
ブラジル		2	2	4
メキシコ	1	1	1	3
ペルー	1	1	1	3
【アフリカ地域】				
ケニア	1	1	1	3
エチオピア	1			1
ナイジェリア			1	1
合計	10	10	10	30

(注) 個別研修員は除外

#### (4) ブリーフィング

研修員が到着した翌日、日常生活上及び研修上必要な基礎的な知識を与えるため次のプログラムにより、(財)国際協力サービス・センターの協力を得て実施した。



ブリーフィング実施時間および順序

No.	時間帯	内 容	実 施 方 法	所要時間	備 考	
1	10:00~	登録手続き	ブリーフィング担当者が指導	15分	①②③	
2	10:15~	「GUIDE TO JICA」	オートスライド上映	25分	⑥	
3	10:40~	「GUIDE TO TIC」	ビデオ上映	25分	⑦	
4	11:05~	「HOW TO PROTECT YOURSELF FROM FIRE AND EARTHQUAKE AT TIC AND OTHER SIMILAR FACILITIES」	ビデオ上映	20分	⑧	
5	11:25~	TIC館内施設案内	防災施設を中心にブリーフィング担当者が案内・説明	25分	⑨	
6	11:50~	質疑応答	2、3、4、5の補足説明	10分	④	
昼 食						
7	13:20~	資料等配布		10分	⑩⑪	
8	13:30~	あいさつ	TIC所長	15分		
9	13:45~	ALLOWANCE および研修員受講についての補足説明と質疑応答	ブリーフィング担当者による口答説明	45分	⑩	
10	14:30~	「GUIDE TO LIFE IN JAPAN」	ビデオ上映	20分	⑫	
	14:50~	休 憩			10分	
11	15:00~	滞日生活についての補足説明(10の補足説明を含む)	ブリーフィング担当者による口答説明	30分	④⑤⑬	
12	15:30~	キャッシュカードの使用方法と諸手続きの説明および質疑応答	ブリーフィング担当者による口答説明	30分	⑭	
13	16:00~	キャッシュカードによる滞在費の引き出し	銀行における実地指導		⑭	

実施業務内容（備考欄の番号に符合する。）

- ① From of Register の配布、記入指導および回収
- ② 旅券有効期限の確認
- ③ 査証有効期限の確認
- ④ 医療カードの配布、写真添付および使用方法の説明
- ⑤ 航空券の預かり、および航空代理店への引き渡し
- ⑥ スライド「GUIDE TO JICA」の上映およびその補足説明
- ⑦ ビデオ「GUIDE TO TIC」の上映およびその補足説明
- ⑧ ビデオ「HOW TO PROTECT YOURSELF FROM FIRE AND EARTHQUAKE AT TIC AND OTHER SIMILAR FACILITIES」の上映およびその補足説明
- ⑨ TIC館内施設案内
- ⑩ 「KENSHU-IN HAND BOOK」「Training in Japan」「Map of Tokyo」「Final Report用紙」「事業団のしおり」「研修員バッヂ」の配布
- ⑪ 受入諸手当の内容および研修の趣旨についての補足説明、質疑応答
- ⑫ ビデオ「GUIDE TO LIFE IN JAPAN」の上映およびその補足説明
- ⑬ 滞日生活についての補足説明（事業団担当者、受入先、宿泊先、在日大使館の住所・電話番号、その他日常生活必要事項等）
- ⑭ 銀行カードの配布と使用方法の説明（銀行における実地指導を含む）

その他の業務

- ① プリーフィング出席後の研修員のスケジュール確認・調整（メッセージシート  
の点検を含む）
- ② 銀行カード発行遅延分への応答措置
- ③ 同上該当者への当座資金貸付調整（土曜日受講者への対応を含む）
- ④ “PAYMENT OF ALLOWANCE” と実際のスケジュールとの照合および  
担当者への連絡

- ⑤ 研修監理員配置のない研修員に対する対応
- ⑥ 同上該当者少額交通費の請求方法等の指導
- ⑦ 配布資料全般の在庫監理
- ⑧ コピー機使用を希望する研修員への諸手続き説明と操作方法の指導
- ⑨ 研修に係わる各種注意事項の伝達
- ⑩ 研修監理員との連絡・調整

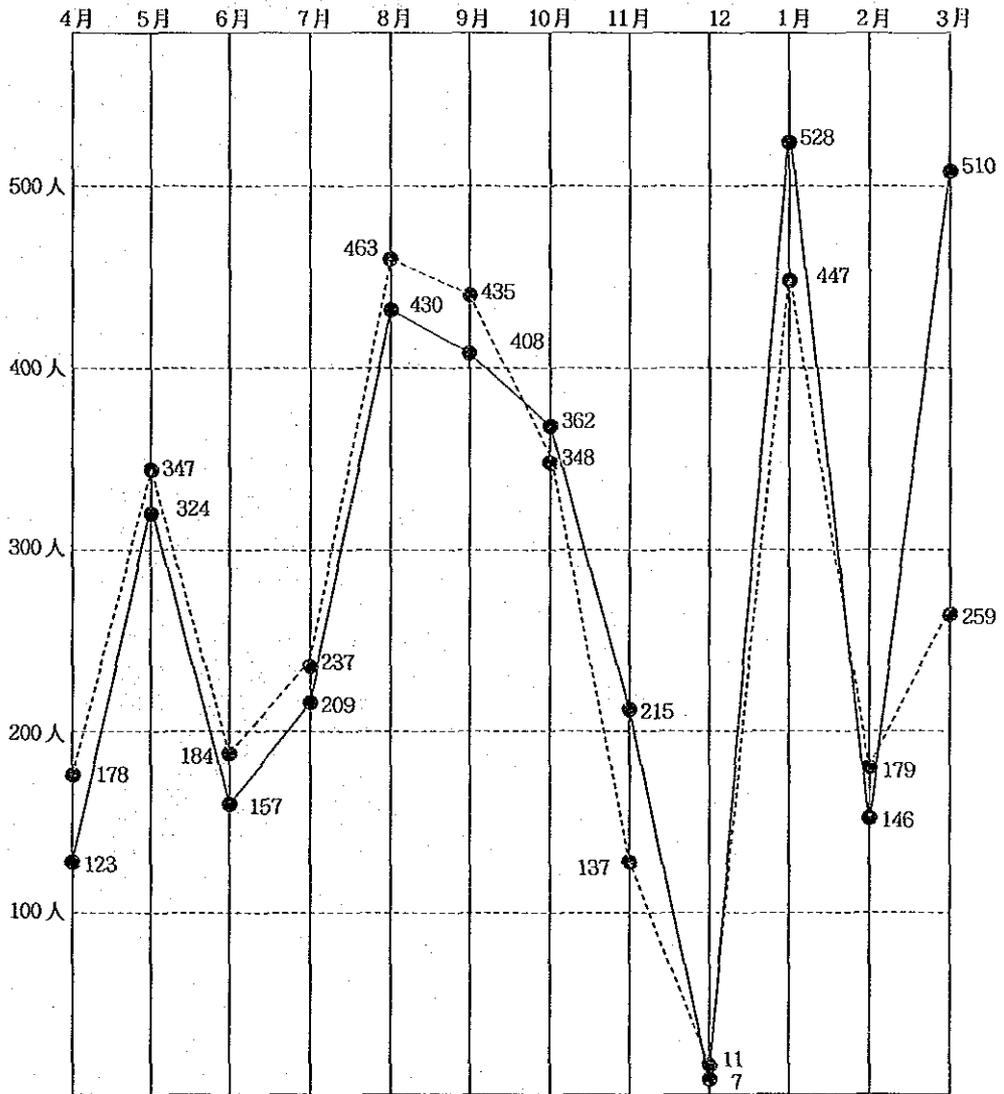
(土曜日) ブリーフィング実施時間および順序

No.	時間帯	内 容	実 施 方 法	所要時間
1	10:00~	登録手続き	ブリーフィング担当者が指導	15分
2	10:15~	「GUIDE TO TIC」	ビデオ上映	25分
3	10:40~	「HOW TO PROTECT YOURSELF FROM FIRE AND EARTHQUAKE AT TIC AND OTHER SIMILAR FACILITIES」	ビデオ上映	20分
4	11:00~	「GUIDE TO LIFE IN JAPAN」	ビデオ上映	20分
5	11:20~	TIC館内施設案内	防災施設を中心にブリーフィング担当者が案内・説明	25分
6	11:45~	補足説明および質疑応答	2、3、4、5の補足説明	30分

当センターで作製した防災ビデオの上映及びTIC館内ツアーをプログラムに組み入れ、非常時における心構え、TIC施設の把握等の充実を図った。

本年度のブリーフィング受講者は3,536人（昨年度3,225人）にのぼり、うち集団コース研修員は2,076人、個別コース研修員は1,460人であった。月別受講者数の推移は別表の通りである。

月別ブリーフィング受講研修員の人数



— 平成元年度実績

- - - 昭和63年度実績